

平成29年度

事業報告書

ともえ学園

平成29年度事業報告書

ともえ学園

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	69	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	38
受入回数	9	7	5	4	4	3	5	4	3	3	3	2	52
受入延日数	56	49	52	44	37	39	48	39	36	39	38	34	511

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
受入回数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
受入延日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

④在所者状況（平成30年3月31日現在）

年齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	2	0	2
25～30歳未満	1	0	1
30～35歳未満	6	0	6
35～40歳未満	4	0	4
40～45歳未満	14	1	15
45～50歳未満	17	1	18
50～55歳未満	14	2	16
55～60歳未満	7	0	7
60～65歳未満	1	0	1
65～70歳未満	0	0	0
計	66	4	70

在園年数	男	女	計
0～1年未満	1	0	1
1～5年未満	1	0	1
5～10年未満	6	0	6
10～15年未満	6	1	7
15～20年未満	8	0	8
20～30年未満	31	3	34
30～35年未満	13	0	13
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	50	3	53
精神発達遅滞	10	0	10
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	30	0	30
5	24	4	28
4	11	0	11
3	1	0	1
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	6	9	3	4	1	2	9	5	1	3	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	石川県津幡町	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	2	1	1	0	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	70

(高田孝康)

2 トライアングルグループ

1 グループ目標

- ・利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。
- ・ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

2 生活全般

①目標：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・健康、清潔の維持に努める。

②内容

衣 類 整 理：衣類を洗濯室から自室に持ち帰り、整理し入浴の準備を行う。

- ・パジャマの準備ができれば脱衣室の棚へ持って行く。
- ・棚にパジャマを置き、衣類カゴは洗濯室に返す。
- ・支援の必要な利用者は職員が側について一緒に行く。

衣 類：破けたり、ゴムが伸びた物は、補修したり、新しい物と交換を行った。

- ・季節に応じた衣類を着てもらったり、足りない物は、購入した。
 - ・身だしなみについても正しい着こなしが出来る様に支援を行った。
 - ・名前が消えた衣類について名前を書く。
- 食 事：自分で配膳口からセルフでお膳にセットし、席まで運び、摂取する。
- ・安心して食事が出来る様に席にも配慮する。
- 入 浴：グループ毎での入浴を行う。洗体、洗髪が行えるよう個別の支援を取り組む。
- ・入浴の順番を決め、少人数でゆっくりと入ってもらう。
 - ・入浴後皮膚疾患のある利用者には、個々の薬を塗布する。
 - ・踵や手の荒れを防ぐ為、クリームを塗布し、ソックスを履いてもらう。
- 手 洗 い：飲食前やクラブ活動後などに、石鹼を泡立てて手を擦るなど確実な手洗いが行えるよう支援を行った。
- ・手指乾燥機の使用の支援を行った。
- 整 容：朝食後の歯磨き後に洗顔を行う。できない人は、職員が支援を行った。
- ・髭剃りについては職員が全面的に支援を行った。
- シーツ交換：毎週土曜日に更新。できる限り、自分のシーツは、自分で交換をしてもらった。
- ・失禁等で寝具が汚れやすい方については、個別に敷きパット等を使用し、なるべく寝具が汚れないように配慮した。
 - ・シーツが汚れたときは、速やかに交換を行った。
 - ・天気の良い日は、外へ干した。寝具が湿る利用者については、毎日外へ干したり布団乾燥機を使用して清潔に努めた。

健康管理

- ・月1回血圧、体組成測定、腹囲測定を行い増減のチェックを行った。
- ・毎週日曜日の午後、爪切り、耳チェックを行った。

③経過・課題：

- ・シーツ交換は、職員の支援によってできる人が増え定着してきた。
- ・課題としては、手洗いや手指乾燥などが不確実な利用者が多いため、今後も継続し手洗い、手指乾燥ができるよう取り組む必要がある。
- ・下着シャツが出たままになっていたり、汚れた衣類を着ていたり破けた衣類を着ていた事もあるので身だしなみについて配慮を行う。
- ・衣類の不足がないように早めに購入をしていく。
- ・季節と体にあった衣類の提供をしていく。

3 口腔ケア

①目的：口腔内の残渣物除去を行う。

- ・利用者の健康維持管理を目指す。

①内容：日々の歯磨き支援に加えて、丁寧にブラッシングをし、口腔内のチェック等を利用者一名につき月二回実施した。

- ・8月より毎週金曜日の午後に居室の通り毎に洗面所で口腔内のチェックを行い、表に記入した。緊急性と判断した利用者さんについては、看護に連絡した。その他のものは月末に看護に報告した。

③経過、課題、まとめ

- ・毎週金曜日（行事がある日は除く。）に居室の通り毎に口腔ケアを行った。
- ・昼食後、2名ずつ口腔ケアを実施した。特定の利用者が口腔ケア表を気にする為、職員室や洗面所下の保管になった為忘れがちになり、出来ていないことも多かった。しかし、毎週金曜日に口腔ケアの時間を設けたことで、詳しく口の中を確認することができた。
- ・年に1回の歯科受診の結果を利用者毎にパソコンへ保存した。
- ・その結果を元に虫歯や歯の動揺等が見られる利用者から歯科受診へ行ってもらった。
- ・歯周、歯肉炎予防の為、昨年よりコンクールを毎日1回昼食後の歯磨き時に使用し始めた。
- ・感染時個室対応になった利用者があり、感染対策で室内での口腔ケアになった為、口腔内を清潔に保つことが難しかった。コンクールを使って対応した。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・口腔ケアを確実に実施することで1年を通して健康に過ごしてもらいたいと思う。
- ・口腔内の異常を早期発見することで、今後の健康にも関わってくると感じた。また、うがいができない利用者さんが多く、うがいにも力を入れていく必要があると感じた。

4 清掃

①目的：生活棟の清潔を保つ。

②内容：一日、3回のモップでの床拭き掃除を行う。（居室は一日一回）

- ・ドアノブなどの拭き上げをクロスを使用して行う。
- ・トイレ掃除を一日3回定期的に行い、汚れなどがあつたと時には速やかに清掃した。
- ・汚れている布団やシーツはその都度交換した。
- ・一日一回天窓を開けて換気を行った。

③経過・課題

- ・洗浄剤を使った床のモップ掛け（1日3回）やドアノブ拭き（1日1回）を行った。
（通常はオキシヴィルファイブ液128倍、感染症流行時ピューラックス0.02%液）
- ・布団乾燥については、天気の良い時には、外へ干した。
- ・グレーチングの掃除は、年二回のワックス掛けの前に行った。
- ・定期的に空気の入換えをした。
- ・トイレや居室で異臭がすることがある為、消臭が課題。

5 日課

クラブ活動

①目標：午前・午後と活動着に更衣をし、活動を行う。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容

- ・石、雑草や倒木の運搬、落ち葉集め、畑で野菜作り、プランターでの花作り、花壇の手入れ
- ・冬場の活動として新たに缶潰し、植菌を実施した。
- ・雨天時は、室内ウォーキング20分や、センター内ウォーキングwぽ行った。

③経過

- ・バケツを使用した石拾いや腐葉土集めを行う。1年間を通して怪我無く作業を行えた。
- ・畑での野菜作りを行った。胡瓜、茄子、ミニトマト、オクラ、大根、ジャガイモ、ピーマン、

南瓜、ニンニク、唐辛子等を収穫できた。収穫する喜びを感じてもらった。

- ・収穫した野菜は、厨房へ提供し、利用者の副食の具材にしてもらった。
- ・毎月末、慰労会を行い、活動の報告、写真を見ながらの表彰、収穫した野菜を試食してもらったり、間食作りを行い1ヶ月の労を労った。
- ・プランターへの花を植えた。ペチニア ビオラ、チューリップ、ポーチラカ、ギガンチュームトレニアなど
- ・センター前花壇の手入れを1年通して行った。チューリップの球根を植えた。土と腐葉土追加。ギガンチュームの発育が悪いため移動などの作業を行った。

④課題

- ・見守りが必要な利用者が増えたことで、なかなか全員参加で同じ活動が難しくなってきた。
- ・花壇について、意見を出し合いながら増やしていきたい。
- ・中庭に置いてあるピザ釜を作成し、使用する。
- ・雨天時の活動について、ウォーキング以外も考えてきたい。

作品作り

①目的：少人数で作品を作ることで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋げていく。

- ・作品作りを通して利用者がどんな作業ができるかを探し出す。
- ・できあがった作品を見ることで季節を感じたり、気分転換の一助にする。
- ・文化祭で展示し発表の場とする。

②内容：利用者が、鎖編みをした毛糸を使用し、作品を作った。

- ・トライアングルレクで家族と一緒に大きな一つの作品を作った。
- ・可能な限り月毎に毛糸を使った季節を感じられる作品を作成した。
ひな人形、あじさい、ひまわり、干支（犬）

③経過・課題

- ・特定の利用者だけの参加になっていた。
- ・手を添えると毛糸を貼れる利用者もいるので、一人ひとりにあった支援を行い参加してもらおう。
- ・トライアングルレクでの作品はご家族も大変喜ばれていた。
- ・時間確保が難しく、数人しか関わることができない為、課題は多くあった。
- ・毛糸を使うことでの個人負担や衛生面（作成する利用者の自傷行為や不潔行為がある為）を考えると、今後は違う方向で作品作りをしていくほうがいいのではないかと感じた。

個別活動

①目的：少人数で活動をする事により利用者への理解を深め、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上につなげていく。

②内容：特に決まった時間を設けることはなく利用者にあった活動を職員と一対一や二対二で行った（フラワーアレンジメント、書道、計算ドリル、漢字ドリル、文字を書く練習、塗り絵、編み物、ピアノ演奏、絵本、ウォーキング、テレビゲーム、ジグソーパズル、音楽鑑賞、読書、カレンダーを利用したコミュニケーション）。

③経過・課題

- ・職員一人ひとりが個別活動を各利用者の施設サービス計画に反映し、利用者の新たな一面を発見するよう努めることができた。

- ・継続して時間を確保出来ていない。

地域交流

①目的 : 地域の人とコミュニケーションを図る。

地域で農業体験をする事で気分転換を図る。

個別(少人数)で参加し、出来る事を見つけて行く。

職員も農園で体験することで、活動への視野を広げていく。

②内容 : 5月30日 5名参加 ビニールハウスタマネギの畑の草取り

6月24日 6名参加 ビニールハウスの草取り

7月18日 4名参加 玉葱の収穫

9月19日 3名参加 南瓜を軽トラックまで運ぶ

10月9日 20名参加 小文の畑の片付けとカボチャの収穫

11月7日 4名参加 里芋の収穫

- ・作業終了後は、農園の方からお茶とお菓子を頂き、一緒に食べる事で、関わりを持つことができた。

③経過・課題

- ・回数を重ねることで利用者もスムーズに作業を行えるようになった。
- ・作業終了時に間食を頂く事で作業の意欲が見られてきた。
- ・利用者が農園の方に自ら話し掛ける事が出来ていた。
- ・職員は、野菜の植え時や植え方等、解らないところを学ぶ事が出来た。
- ・来年度は、一年間の予定をある程度、決める事が出来たら良いと思う。
- ・冬場でも東山さんと交流をしていきたい。

運動

①目的 : 体力維持、向上を目指す。

- ・楽しみながら体を動かす。

②内容 : 雨天時活動が出来ない日のマット運動、平均台、跳び箱、フリスビー、ウォーキングなど

③経過、課題

- ・遊歩道、室内、センターウォーキングを主体に行った。
- ・マット運動、球技、自転車は取り組む事がほとんど出来なかった。
- ・利用者が進んで取り組みやすいのがウォーキングということもあり職員もウォーキングを行う事が増えている。球技やマット運動を進んで行えるような支援方法が必要。また、グループ分けをして取り組むなど工夫が必要。

マシン

①目的 : マシン運動を行い、基礎体力保持と介護予防を目的とする。

②内容

- ・マシン操作ができる利用者を主に対象とする。
- ・金曜日の午後に、Lが二人指名して取り組んだ。
- ・マシンの実施状況、利用者の様子を記録用紙に記入した。
- ・マシン操作が苦手だったり拒否する利用者には、無理に働き掛けを行わなかった。

③経過・課題

- ・外での活動が主になっていた季節には、天候の悪い日に実施していた。なかなかマシンに行くこ

とが定着できなかったので、金曜日の午後に行くこととした。

- ・全ての利用者さんがマシンを正しく使用していくことは、難しい。
- ・利用者さん個々に合ったストレッチも考えていくことも必要。

6 行事

①目標：利用者個々に応じた行事を提供する。

- ・季節感を実感したり、様々な体験をしてもらえる事で充実した生活を送ってもらう。
- ・誕生日を意識してもらい楽しい日を過ごす。

②内容

・季節の行事

月	日	行事名	参加人数	場所
4	7	お花見会	26名	君田遊園
5	10	バスハイキング	25名	横谷ふるさとセンター
6	9	バスドライブ	23名	みよし公園(カルチャーセンター)
7	5	バスドライブ	23名	風土記の丘
7	28	バスハイキング	22名	県民の森
8	9	夏祭り	23名	多目的棟、プレイルーム
9	8	バスドライブ	25名	常清滝
9	24	レクリエーション	25名	多目的棟・プレイルーム
10	6	バスドライブ	25名	灰塚記念公園
11	4	バスドライブ	25名	君田遊園
11	22	バスハイキング	26名	備北丘陵公園
12	8	忘年会	26名	プレイルーム・宿泊室
1	10	新年会	26名	プレイルーム・大作業室(書き初め)
2	7	お楽しみ会	26名	プレイルーム 間食作り(ミニトリュフ)
3	3	お楽しみ会	26名	食堂。間食作り(カップケーキ)

・日帰り旅行

月	日	参加人数	場所
4	17	2名	世羅高原農場、世羅ゆり園、しまむら
5	22	3名	しまね海洋館アクアス
	24	3名	平田観光農園
6	15	3名	道の駅「福富」・トムミルクファーム
	23	3名	ガラスの里
7	19	3名	回転寿司・広島緑化センター
	26	3名	世羅ワイナリー
8	10	2名	呉商店街・呉港
	29	3名	井倉洞
9	22	3名	備北丘陵公園・モスバーガー
	27	2名	ガスト・イオン高屋ショッピングセンター・チェルガトーレ
10	18	2名	イオンモール出雲・出雲大社
	26	2名	すすめヴァイキング・トムミルクファーム

	27	3名	帝釈峡山荘
11	13	3名	尾道・千光寺公園
3	15	3名	備北丘陵公園
	19	3名	世羅ワイナリー・夢公園

・誕生者外出、誕生者お祝い会

月	日	行 事 名	場所・備考
5	6	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	19	誕生者お祝い会	セブンイレブン、センター宿泊室
6	6	誕生者外出	21番館
	17	誕生者外出	ユニクロ・ココス
7	17	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	18	誕生者お祝い会	フタバ図書、CCプラザ
	24	誕生者お祝い会	センター宿泊室
8	15	誕生者外出	ジョイフル三次店
	17	誕生者外出	CCプラザ・100円ショップ
	18	誕生者外出	そらら（道の駅高野）
9	26	誕生者外出	ユーホー・モスバーガー
	28	誕生者お祝い会	フタバ図書・モスバーガー
10	17	誕生者お祝い会	センター宿泊室
11	6	誕生者外出	そらら（道の駅高野）
	18	誕生者お祝い会	センター宿泊室
	19	誕生者外出	サングリーン
	23	誕生者お祝い会	21番館
	23	誕生者外出	CCプラザ・ダイソー
12	20	誕生者お祝い会	サングリーン・センター宿泊室
	22	誕生者外出	CCプラザ・喫茶店フルフル
1	18	誕生者外出	風季舎・三次運動公園
	20	誕生者外出	サングリーン
2	24	誕生者外出	CCプラザ
	25	誕生者お祝い会	サングリーン・センター宿泊室
3	12	誕生者外出	CCプラザ

・慰労会

月	日	行 事 名	場所・備考
5	31	慰労会	プレイルーム（桜餅）
6	30	慰労会	プレイルーム（フルーチェ）
7	31	慰労会	プレイルーム（じゃがバター）
8	31	慰労会	プレイルーム（かぼちゃのホットケーキ）
9	30	慰労会	プレイルーム（ピザ風春巻き）
10	31	慰労会	プレイルーム（野菜ラーメン）
11	30	慰労会	プレイルーム（フライドポテト）
12	30	慰労会	プレイルーム（サラダパン）
1	31	慰労会	プレイルーム（焼き芋）

2	28	慰労会	プレイルーム (チョコ菓子)
3	31	慰労会	プレイルーム (チョコメロンパン)

・お楽しみ外出

月	日	参加人数	場所
5	15	3名	道の駅「ふの」
6	27	4名	サングリーン (ミスタードーナツ)
7	13	4名	道の駅「たかの」
8	22	3名	サーティーワンアイスクリーム
9	12	3名	道の駅「たかの」
10	24	3名	青オリンゴ園
11	13	3名	県立みよし公園・マクドナルド

③まとめ

- ・季節の行事は季節や気候に合わせた行事を行った。
- ・ワックス掛けの日 (2回) は朝から夕方までの外出を行った。大人数がゆっくりできる場所を確保することが難しかった。不穏になる利用者の対応が難しかった。
- ・日帰り旅行、お楽しみ外出、誕生者外出、誕生者お祝い会を行った。ほとんどの利用者が前年度より外出する機会が増えた。一回の外出で2～3名の利用者と外出になり、見守りをする事で体験などの支援等が出来ていた。
- ・誕生者お祝い会については、誕生日当日体調が悪かったり、行事の関係でお祝い会の日がちが、ずれることもあった。喫茶店やコンビニへ外出する利用者も増えた。全ての利用者が担当職員と一対一でのお祝いを行う事ができた。
- ・今年度より毎月末に慰労会を行った。活動で栽培した作物を利用した間食づくりを行った。利用者も間食づくりに慣れ落ち着いた雰囲気で開催することができていた。

7 トライアングルレクリエーション

平成29年9月24日(日) 10:35～ 14:40 利用者25名 短期利用者1名 18家族21名参加

①目的：利用者、ご家族、職員、三者の親睦を深め、楽しいひとときを過ごす。

②内容：作品作り(きざみ絵作り)、間食作り(パフェ作り)、映像鑑賞

③反省・感想

- ・今年度もともえ学園内で開催し、午前は作品作り、午後は間食作りを全員で行った。一年間の写真をまとめたムービーを間食を食べている間に流した。
- ・午前中の作品作りでは山室さんが日々の生活で編んでいる鎖編みの毛糸を使用した。各家族毎に花の模様を印刷した紙を渡し、各々好きなように毛糸を貼り付けてもらった。殆どの家族が楽しそうに作業に集中していた。
- ・午後の間食作りは今年度の夏祭りで行ったパフェ作りを改良したもので、利用者自身一度行っている内容だったためか、落ち着いて参加することが出来ていた。
- ・間食中のムービーはパソコンが重く音楽が途切れ途切れになっていた。リハーサルや終了後に流したときは綺麗に流れていたなので、本番で使用しないタスクを消しておくべきだった。
- ・本年度は他の行事が減った為か、家族の参加が非常に多かった。例年通りの参加人数を見込んでの起案だったため会場が少し狭かったと思う。来年度以降も今年度くらいの参加者がいるのであれば学園外での開催にしたほうが、よりゆったりとしたレクになると思う。

8 掲示板

- ①目的：1日の予定を利用者にわかりやすく提示する。
- ②内容：ホワイトボードの当日の予定・勤務者・献立を記載する。
- ③経過、課題
 - ・毎日、夜勤者が次の日の予定・勤務者・献立を更新した。
 - ・マグネットが破けてきたり、使用しなくなる物も出て来るのでその都度更新する。
 - ・保存することは考えず、提供して行く方が良いのかも知れない。

9 環境

- ①目的：利用者が生活しやすくなるよう環境整備、棟内の改善を行う。
- ②内容：ベッド、壁の修繕、ドア、ドアクローザーなどの定期チェック。
 - ・居室の名前表示。
 - ・季節に応じた水道の温度設定。
 - ・ベッド、畳みの更新
 - ・リビング窓ガラスのフィルムの更新。
 - ・補修したドアの更新。

③経過、課題

- ・壁は随時、修理している。
- ・居室ドア、押し入れの交換チェック。
- ・壁は随時、修理している。
- ・居室ドア、押し入れの交換チェック。
- ・ベッドの更新は必要に応じて随時行っていく。
- ・利用者が安心して生活できる様に環境を整備して行く。

11 グループ会議

- ①目的：より良いサービスを提供できるように支援内容、各活動についての課題を協議する。
 - ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。
 - ・取り組みについての意識統一を図る。
 - ・会議の前の月のサービス担当者会議で決まった個別の取り組みについて担当者より報告を行った。

②内容

- 4/7 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 処遇改善 行事 処遇改善
活動 生活 環境 寝具 ケースカンファレンス（9名）
- 5/10 運営会議より 虐待防止委員会より 高田次長より 人権委員会 行事 活動 慰労会
生活 記録 寝具 ケースカンファレンス（5名）
（サイボウズにて） 活動係：休憩時間・支援に入る時間 早②の始業時間 食事の順
日勤者の休憩 朝の薬付け ケースカンファレンス（1名）
- 6/9 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
行事 処遇改善 日課 活動 居室の変更 女性利用者の洗濯物業務 布団の乾燥
ケース記録 ケースカンファレンス（3名） サービス担当者会議より（3名）
- 7/5 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より
人権委員 行事 活動 生活 清掃 マシン ケースカンファレンス（4名）

- サービス担当者会議より（2名）
- 8/9 運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 人権委員 生活 環境
口腔ケア マシン 短期利用者 新入所者 ケースカンファレンス（6名）
サービス担当者会議より（3名）
- 9/8 運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会より 行事 早②の勤務 口腔ケア
ベットと畳の更新 トライアングルレク 月のまとめ ケースカンファレンス（4名）
サービス担当者会議より（4名）
- 10/6 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 危機管理委員会より
行事 活動 生活 下剤の服薬 文化祭、親の会の作品作り
ケースカンファレンス（6名） サービス担当者会議より（5名）
- 11/4 看護課長より 支援部長より 運営会議より 支援部課長会議より 人権委員会より
虐待防止委員会より 人権委員 危機管理委員会 行事 活動 生活 トイレ 夜間の照
ケースカンファレンス（2名） サービス担当者会議より（4名）
- 12/8 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会 人権委員会
支援部長より 行事 日課 活動 入浴後のソックス ケース記録
ケースカンファレンス（7名） サービス担当者会議より（4名）
- 1/10 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会 行事 活動
生活 清掃 サービス向上委員会より 記録 ケースカンファレンス（8名）
サービス担当者会議より（4名）
- 2/7 運営会議より 支援部課長会議より 支援部長より 虐待防止委員会より 危機管理委員会
行事 環境 生活 利用者玄関 入浴の順番 臭いについて
ケースカンファレンス（7名） サービス担当者会議より（4名）
- 3/3 運営会議より 虐待防止委員会より 危機管理委員会 行事 入浴の順番 水分補給
衣類の片付け 長靴の下駄箱 布団棚の清掃 口腔ケア 短期利用者の衣類 雑巾
ケースカンファレンス（4名） サービス担当者会議より（4名）

③経過、課題

- ・会議内でのケースカンファレンスでは、不適切な行動がある利用者を中心とし、支援内容の確認を行った。サービス担当者会議を行った利用者の取り組みについて、担当職員から報告してもらった。
- ・職員が意見を出せるように司会を務めたつもりだが、同じ職員しか発言が無かった。議題によっては、活発に意見が出て討論ができた会議もあった。意見を出しやすい雰囲気作りが必要。
- ・グループ職員へ議題の提出を求めたが、殆ど記入が無かった。
- ・夜勤入り、明け職員の議題の収集に課題が残った。
- ・会議の記録係の職員に、会議終了後会議録を作成してもらい決裁周知をすることで、会議に参加出来なかった職員への周知が早くなった。

1.2 まとめ

- ・クラブ活動については、午前午後と活動に着替えて、実施した。バケツを持って遊歩道へ行き、草や落ち葉を集めて畑まで運搬を行った。畑には、色々な作物を植え、収穫を行った。利用者一人ひとりが、出来る作業に参加した。畑で収穫した物を、食べる機会も設けた。
- ・外出については、一人1～2回の日帰り旅行を実施した。また、午後から短時間の外出（お楽し

- み外出)を実施し、一人1回は参加してもらった。
- ・中庭より出入り口していたが、冬場は雪どけ水があり出られなかったので、旧下駄箱を利用し、宿直室横の出入口を利用した。下駄箱を設置した。
- ・Fさんの不適切な行動が多くなり、5月22日から精神科に服薬調整で入院し8月25日に退院された。
- ・Mさんの不適切な行動が多くなり、5月15日から精神科に服薬調整で入院し8月9日に退院された。
- ・毎月末には、慰労会を実施し、その月に行った事や活動を振り返り、2名の利用者表彰した。その後、畑で収穫した野菜を利用した間食作りを行い、利用者に楽しんでもらった。
- ・健康面においては、12月に有熟者多数が発症し個室対応を行った。2月末～3月始めに、インフルエンザが流行し4名の利用者が感染した。感染症予防の徹底を図る必要性を強く感じた。
- ・口腔ケアや清掃、除菌などの感染症予防を引き続き継続し、再発のないように努力する。
- ・利用者の人権を守り、優しい統一した支援をおこなう。また、利用者・職員共健康に留意し、毎日を生き活きと過ごせるよう配慮する。

(久保宏子、福永真也、若床まゆみ、濱本 豊、林 宏典、藤井秀樹、
上川清美、高森 強 藤本将太郎、金田和夫、川本亜由美、圓藤久明)

3 レインボーグループ

1 グループ目標

- ・言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。
- ・体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。
- ・安全で清潔な生活環境を提供する。
- ・楽しみのある生活を送る。

2 生活

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

- ・生き活きとした生活を送られるよう支援する。
- ・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴になり、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

- ・排泄後の支援（ちり紙を渡す）を行う。
- ・朝食後、昼食後に全員排便誘導を行い習慣付を目指した。
- ・排便確認表を見やすく改善した。

運 動：午前の集い前ラジオ体操第1、午後の集い前ラジオ体操第2を行った。

寝 具：週一回日曜日にシーツ交換、また日常的な汚れはその都度交換した。布団乾燥機を使用して毎日2名ずつ布団の乾燥を行った。

- ・必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用。
- ・午睡用にリビングに夏はタオルケット、冬は毛布5枚を共有の物として使用した。

衣 類：年2回の衣替え・適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けをして交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。ミシン補修できるものに付いては適宜補修を行った。ソックス専用のケースを購入し倉庫に保管した。

日用品：在庫確認による常備。早めの発注を心掛けた。

掃 除：掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

- ・専用の床用モップ10枚、窓・ノブ等用5枚。
- ・床拭き（午前、午後、準夜帯）＊ 感染症発症時 … ピューラックス
その他の期間 … オキシヴィルファイブ
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き（一日1回、随時）
- ・トイレ掃除（一日2回随時）

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確実な手洗いを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前のジェスパ。

顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。

髭剃り：朝食後、個人用の電気カミソリでの髭剃り実施。

散 髪：定期的実施。個々にあった髪型にする。

薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬や、皮膚疾患への薬の塗布を、食後、決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて医務との連携を取り処置をした。

朝夕食後、歯磨きの後に個人用リップクリームを塗布し唇の乾燥対策を行った。

服 薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。与薬確認を確実にし誤薬には注意した。

検 温：起床時と午後の集い前の検温を行った。感染症時には検温時間を増やし、個室対応者用の検温表を作成した。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調等、日頃の様子観察をし、看護との連携を取る。細かいことでも看護に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

2) 口腔ケア

①目的：口腔衛生を保ち、歯周病を予防し健康な生活につなげる。

②内容：毎食後の歯磨き実施。

- ・適時、歯ブラシの交換。
- ・平日に毎日2名ずつ、口腔ケアを行い歯周病防止に努めた。また口腔チェックシートに記録を行った。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。

- ・ 昼食後の歯磨き時には全員コンクールを使用し、ブラッシングを行った。

③経過、課題

- ・ 変わった事があれば看護に報告し歯科受診を行った。

3) 活動

①目的：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・ スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・ 個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容：月曜日～金曜日の午前

- ・ きのこクラブ・・・ホダ木の移動、植菌、水槽浸け、水槽上げ、椎茸の収穫。
落ち葉・草集め・枝木の整理。
(雨天、プレイルーム雑巾掛け、冬季は室内ウォーキング)
- ・ 生き生きクラブ・・・室内清掃、ウォーキング(雨天、冬季は室内ウォーキング)

③経過、課題

- ・ きのこクラブは原木の運搬を中心に行い、水槽付け、水槽上げ、天地返しを行い、昨年度同様に単管パイプ設置場所に原木をふせ込んだ。また、中庭のレンガを撤去し、運搬する作業も行った。3月よりハウス内にて植菌作業を行った。
- ・ 午後からの活動としては前年度のような創造活動は無く、ウォーキング中心の取り組みしか行えなかった。
- ・ 生き生きクラブは運動中心メニューから日常生活動作による運動を取り入れ生活棟内の窓拭きを中心にタオル畳みも取り入れてそれぞれの利用者に合わせた取り組みを前年度から継続して行った。
- ・ 午後からの活動として、何を行うか、利用者が安定して行える活動プログラムを考えていく必要がある。

4) 環境

①目的：怪我のない安全な空間を提供する。利用者が楽しみを持って生活出来る環境作り。

- ・ 破損した物の修繕と交換。

②内容：破壊行為等による破損は営繕係と協力をして早めに対処を行った。

- ・ ベッドなど生活に関わる部分の改善変更を行った。
- ・ 中庭に下駄箱を設置しスムーズに出入りが出来る様にした。

③経過、課題

- ・ 破損箇所特に壁穴については随時修繕し営繕との協力をしてスピーディーな修繕を行えたと思う。
- ・ 今後も利用者が破壊に至らない支援を前提に不測の事態には早い修繕が出来るよう再度必要物品の補充を行っていく。

5) ブログ

①目的：ホームページのブログを通じて利用者の生活や外出した様子を、家族や各方面に発信する。

②内容：行事や日課、日々の生活風景等を毎日紹介した。

③経過・課題

- ・ 撮影対象者の一ヶ月ごとの予定表を作成した。一ヶ月で全員が紹介出来るよう配慮したが、

感染症の時期など予定通り行かない事もあった。

- ・レインボーグループの利用者は一定の方向を見たり動きを止める事が難しい面もあるので全体写真を撮る時は少し多めに写真を撮り、その中から写真写りの良い物を選ぶようにしたい。
- ・今後も写真を撮る際は身だしなみなどに注意しながら撮影していきたい。

6) 日課、日誌

①目的：日課を変更毎に更新を行った。

- ・確実、かつスムーズに支援する為の日課表の作成を心掛けた。
- ・利用者の状況や確実な支援が行える為の日誌様式の変更を行った。

②内容：一日の流れと勤務形態を分かりやすく記載した。

- ・利用者の動きや日課の流れを確認して記載した。
- ・ミスの起こらない支援ができるよう、各マニュアルの変更と徹底化を行った。
- ・受診、外出等の予定を分かりやすく、記入しやすい様式にした。
- ・短期入所者を含め、在園数の記入欄を把握しやすい様式に変更した。
- ・利用者の状況に応じて変更を行った。

③経過・課題：定期的に日誌様式の見直しを行った。今後も行っていく。

7) 処遇改善

①目的：業務の省力化、効率化、見直し。

- ・情報の交換や提案を行う。

④内容：施設内メールの掲示板を活用して、情報の交換や提案、職員への周知を行い、業務の改善に役立てる。情報を集めて来年度へ向けて活用する。随時、会議を利用して検討、改善を行った。

⑤経過・課題

- ・日課や取り組みの変更、利用者対応の情報など、さまざまな懸案事項について話しを行い改善出来るところは情報交換、共有し、利用者支援などにあった。改善案を提案してもらった事で、業務の改善に役立ったと思う。
- ・効率が悪く仕事をしている場面もあるが、利用者への対応や時間の使い方、難しい場面も多く見受けられるが、報告、連絡、相談をこまめに行う事が求められる。
- ・日々、改善出来る事はないか考えながら業務をおこない、職員からの改善提案を出し易い方法を模索していく。

3 行事

1) 誕生者外出

①目的：誕生日を迎えた事を感じてもらう。

- ・誕生日に担当職員と外出やお祝い会を行い、親睦を深めてお祝いをする。

②内容：誕生日の日（もしくは近日）に午後から外出をする。

外出日	年齢	場所
4月4日	45歳	療育センター宿泊室
4月16日	53歳	高谷山、療育センター宿泊室
4月21日	42歳	三次運動公園、コンビニ

6月17日	40歳	しまむら・コンビニ・風土記の丘
6月30日	49歳	ケーキ屋ブラン(三次市)、療育センター宿泊室
7月27日	50歳	ナフコ、CCプラザ、療育センター宿泊室
8月5日	53歳	しまむら、CCプラザ
8月8日	43歳	SHOT三刀屋店、カフェレストランそらら
8月31日	49歳	三次ワイナリー内(喫茶ヴァイン)
9月28日	55歳	療育センター宿泊室
10月9日	43歳	ブラン、庄原上野公園
11月10日	49歳	風季舎、療育センター宿泊室
11月20日	47歳	みよし運動公園
11月20日	46歳	みよし運動公園
11月24日	51歳	三次ワイナリー
11月30日	51歳	療育センター宿泊室
12月13日	45歳	ナフコ、風季舎、療育センター宿泊室
12月27日	32歳	フタバ三次店、風季舎、療育センター宿泊室
1月19日	49歳	Cafe mame茶(三良坂町)
2月10日	31歳	三次運動公園・しまむら
2月15日	40歳	フレスタ、コンビニ

③経過、課題

- ・誕生日である事を理解してもらい、年齢や興味など、個々の利用者にあった外出やお祝い会を計画していく事が課題である。

2) レクリエーション

①目的：季節感のあるレクリエーションを提供する。

②内容：レインボー会議のある日の午後に、季節に応じたレクリエーションを行う。

実施日	行事名	場所	内容
4月9日	お花見会	園内、上野公園	お弁当会食、散歩
8月7日	夏祭り	センタープレイルーム	スイカ割り、かき氷、ゲーム
12月6日	忘年会	センタープレイルーム	写真観賞、動画鑑賞
1月11日	新年会	センタープレイルーム	新年の抱負、ピザ作り
2月5日	お楽しみ会	センタープレイルーム	ゲーム、パフェ作り

③経過、課題

- ・予定通りに実施することができ、季節を感じて頂ける事が出来たと思う。
- ・職員のどんちゃんや手作り間食を提供し楽しんでもらった。

3) バスドライブ・バスハイキング

①目的：ドライブすることによって気分転換を図る。

- ・普段と違う場所での散策を楽しむ。

②内容：レインボー会議のある日の午後にマイクロバスでドライブ。

- ・昼食のお弁当や間食を持って行き、山や公園で食べたり、散歩や遊具で楽しんでもらった。

実施日	行き先	参加人数
5月8日	国営備北丘陵公園	19名
6月7日	尾関山	19名
7月3日	県立みよし公園	18名
9月6日	風土記の丘	18名
11月2日	江の川カヌー公園さくぎ	18名
3月29日	三次運動公園	21名

③経過、課題

- ・7月は1名の体調不良者があり、全員で参加出来なかったが、その他の月については全員参加で実施する事が出来た。また天候により目的地を柔軟に変更して実施した。
- ・散策や遊具で楽しむ時間をしっかり取り、のんびりとした時間を過ごせてもらえた。
- ・利用者は特別の間食や出掛ける事自体を毎回楽しみにしていた。
- ・季節によっては感染症対策の為、無理のない外出を計画した。

4) 外出

①目的

カフェ外出

- ・外出することにより気分転換をはかり、通常生活の励みにする。

日帰り旅行

- ・好きな昼食を食べ、一日をゆっくりと過ごし、気分転換を図る。
- ・色々な経験の場を提供する。
- ・食べること以外の楽しい体験をしてもらう。

②内容

- ・カフェ外出は平日の午後と会議の日のバスドライブ月にバスドライブとは別に数名が参加。
- ・日帰り旅行（一日を通して楽しいことを体験してもらう外出）

実施日	内 容
5月8日	カフェ外出：風土記の丘
5月17日	カフェ外出：喫茶ヴァイン、ナガタニ
5月19日	日帰り旅行：松江カラコロ工房、SHOT三刀屋
5月23日	カフェ外出：道の駅「湖畔の里福富」
6月7日	カフェ外出：Cafe mame茶
6月22日	カフェ外出：世羅高原花の森
6月27日	カフェ外出：SHOT三刀屋、道の駅「たたらば壺番地」
7月3日	カフェ外出：マクドナルド
8月1日	カフェ外出：三次ワイナリー
8月24日	日帰り旅行：出雲科学館、イオンモール出雲
8月29日	カフェ外出：道の駅「たかの」
9月6日	カフェ外出：世羅夢公園
9月21日	日帰り旅行：庄原方面

9月26日	カフェ外出：道の駅「湖畔の里福富」
10月10日	カフェ外出：八重滝（雲南市）
10月25日	日帰り旅行：道の駅「世羅」、夢吊り橋
11月2日	カフェ外出：県立みよし公園
11月13日	カフェ外出：道の駅「湖畔の里福富」
3月 日	カフェ外出：道の駅「世羅」
3月13日	カフェ外出：ココス、尾関山公園

③経過、課題

- ・利用者の方は、外出をととても楽しまれていた。
- ・希望に添った旅行が出来るように計画を立てたが、参加メンバー全員が出来るというのは難しい所もあった。
- ・体調不良者があったが、メンバーや場所を変更することでスムーズに行えた。

5) レインボーレクリエーション

平成29年10月8日（日）利用者20名 16家族30名参加 晴れ

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：平田観光農園

③内容

- ・現地で受付、職員（4名）とご家族の方だけでオリエンテーション。
- ・利用者は学園バスにて現地でご家族と合流。
- ・フルーツ狩りと試食と会食。
- ・午後からはピザ作りと間食（ピザ）、集合写真
- ・現地で閉会

④経過・課題

- ・受付職員と家族送迎の職員の4名が先に現地に行ったため、学園での利用者の対応に時間がかかった。利用者の現地到着が遅れ家族を待たせた。
- ・家族の方の時間の厳守の協力が有り、トラブルも無く行う事が出来た。
- ・ピザを一度に焼くことと自分の作ったピザを食べることが出来た。
- ・全体的に家族と職員が連携が取れ、職員も周りの状況を把握しながら判断して支援を行っていた。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、個別処遇、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

②内容

4月 運営会議・処遇会議からの補足事項 クラブ活動や日課について ケースカンファレンス（9名） 食事場面、入浴場面での注意、確認事項

5月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 事故報告より クラブ活動 日課の確認 ケースカンファレンス（3名）

6月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 人権委員会から 服薬支援について ケースカンファレンス（5名）

- 7月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 クラブ活動について 衣類補修について ケースカンファレンス（7名）
- 8月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 短期入所について ケースカンファレンス（5名）
- 9月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 クラブ活動 口腔ケアについて 衣類整理について 受診報告について レインボーレクについて ケースカンファレンス（8名）
- 11月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会（過去の事故報告より） 日課の確認 短期利用者受け入れ時について シンプルケースの記録について ケースカンファレンス（3名）
- 12月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 日課の確認 活動について 118の使用について 服薬確認について ケースカンファレンス（2名）
- 1月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会 人権委員会 食堂のテーブルについて 排便について ケースカンファレンス（6名）

5) レインボーレクリエーション

平成29年10月8日（日）利用者20名 16家族30名参加 晴れ

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：平田観光農園

③内容

- ・現地で受付、職員（4名）とご家族の方だけでオリエンテーション。
- ・利用者は学園バスにて現地でご家族と合流。
- ・フルーツ狩りと試食と会食。
- ・午後からはピザ作りと間食（ピザ）、集合写真
- ・現地で閉会

④経過・課題

- ・受付職員と家族送迎の職員の4名が先に現地に行ったため、学園での利用者の対応に時間がかかった。利用者の現地到着が遅れ家族を待たせた。
- ・家族の方の時間の厳守の協力が有り、トラブルも無く行う事が出来た。
- ・ピザを一度に焼くことと自分の作ったピザを食べることが出来た。
- ・全体的に家族と職員が連携が取れ、職員も周りの状況を把握しながら判断して支援を行っていた。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、個別処遇、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

②内容

- 4月 運営会議・処遇会議からの補足事項 クラブ活動や日課について ケースカンファレンス（9名） 食事場面、入浴場面での注意、確認事項
- 5月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 事故報告より クラブ活動 日課の確認 ケースカンファレンス（3名）
- 6月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 人権委員会から 服薬支援について ケースカンファレンス（5名）

- 7月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 クラブ活動について 衣類補修について ケースカンファレンス（7名）
- 8月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 短期入所について ケースカンファレンス（5名）
- 9月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 クラブ活動 口腔ケアについて 衣類整理について 受診報告について レインボーレクについて ケースカンファレンス（8名）
- 11月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会（過去の事故報告より） 日課の確認 短期利用者受け入れ時について シンプルケースの記録について ケースカンファレンス（3名）
- 12月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 日課の確認 活動について 118の使用について 服薬確認について ケースカンファレンス（2名）
- 1月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会 人権委員会 食堂のテーブルについて 排便について ケースカンファレンス（6名）
- 2月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会 日課の確認 食事支援、服薬支援について
- 3月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 危機管理委員会 ヒヤリハット クラブ活動について ケースカンファレンス（10名）

③経過、課題

- ・支援については利用者さんの様子や変化について、ケース担当者を中心に毎月の会議や社内メール等で意見交換を行いながら、支援の統一を図るよう話し合った。
毎日の業務についても、よりスムーズに業務が行えるよう会議等で見直しを行ったり確認したりしながら話し合った。また、職員間で臨機応変に対応し、お互いをカバーし合う事が出来たと思う。
利用者の様子や思いは、いつも同じではないので今後もお互いの情報を報告、確認しながら支援していく事が必要だと思った。

5 まとめ

- ・今年度も、クラブ活動としては月～金曜日の午前中のみ行った。午後からはウォーキングが中心でこのクラブ、いきいきクラブと分かれて山の遊歩道、学園周りと分かれて行った。
- ・グループに玄関があるため出入りもスムーズになった。
- ・利用者さんについては、1名の利用者さんが病気で亡くなられ21名となり、8月より短期利用者さんの受け入れをする事となった。毎月1名～2名の利用があった。
- ・健康面については、今年も2月には利用者18名がインフルエンザB型に罹患し自室での静養となった。加齢と共に体力低下も早いと思われる。また、他傷、自傷等での怪我も多く今後も様子観察、見守り支援や個別対応が必要。
- ・来年度も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行っていく。また個々に応じた方法で体力を維持し、健康に過ごしてもらえるよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

（藤田由香里、岩戸洋三、堂西美保、高場修治、桑田樹実、見土 唯、
竹林祐樹、熊澤誠治、中野基行、藤井佑紀、河合淳雄）

4 はなまるグループ

1 グループ目標

- ・利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重し、健康で豊かな生活を支援する。
- ・清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

2 生活

1) 環境改善

- ①目標：快適かつ個別配慮された生活環境の整備を行う。
 - ・建物、建具の損傷、改善に努め、補修、交換、修繕、改良を行う。
- ②内容：1日に廊下を3回、窓やドアノブを2回、居室を2回、掃除を行った。
 - ・冬場は換気も含め5分程度窓を開け空気の入れ換えを行った。
 - ・定例外泊時には掃除場所を決め普段行き届かない所の掃除を行った。
 - ・居室のエアコンフィルター交換を行った。
 - ・インフルエンザ流行中は加湿器をフル稼働させた。
- ③まとめ：建具の損傷については確認した上、営繕係に対応してもらった。営繕の日にエアコンフィルターの掃除を行った。
 - ・外での活動が困難な日は利用者玄関のリフォームを行った。
 - ・冬季や感染症が流行っている時期は、随時加湿機能付き空気清浄機を使用し加湿した。
 - ・廊下、窓やノブ、居室の掃除を入念に行うことで感染症を若干名に留める事が出来た。

2) 衛生・口腔ケア

- ①目的：感染予防と対応
 - ・健康維持
- ②内容：入浴後も含め指示された軟膏塗布・消毒を看護のチェック表に基づき確実にを行った。
 - ・個々の健康状態の把握に努め、看護との連携を深め、迅速な処置、必要な受診を速やかに実行できる体制作りを努めた。
 - ・午前、午後の活動後や食事前の手洗いうがいの実施、手指消毒を徹底した。
 - ・毎月1回体組成測定を行い、健康管理に努めた。
 - ・歯磨き支援として毎月4回、24名全員行い、口腔内のチェックを実施した。チェック表を看護職員と共有する事で速やかに歯科受診の検討をしてもらった。
 - ・毎週土曜日に爪切り、日曜日に血圧測定を実施した。
 - ・夕食後の歯磨き終了後、全員の歯ブラシをピューラックス液に浸け、消毒を行った。
 - ・昼食後と夕食後は全員仕上げ磨きを行った。
 - ・歯ブラシの毛先が開いたら交換を行った。
 - ・床拭きやドアノブ等をオキシヴィルファイヴを使用し1日2回行い、感染予防を徹底した。インフルエンザ罹患者が出たときには、ピューラックスで1日5回の消毒を行った。
 - ・季節の変わり目には、衣類整理、布団乾燥を行った。
 - ・トイレ倉庫、洗面所下の戸棚の整理を行った。
 - ・手指乾燥機の掃除を定期的に行った。
 - ・消耗品の補充や更新を行った。
- ③まとめ：入浴後の軟膏塗布はチェック表を使用し確実にを行った。

- ・体調の悪い人には早めに対応し配慮できたが、自分から体調の不調を訴えることが難しい方に対しては日頃の様子観察から把握する。
- ・手洗いとうがい、手指消毒を徹底して行ったことで、体調を崩すケースは少なかった。
- ・毎週土曜日の爪切り、日曜日の血圧測定は衛生と健康状態の把握の1つになった。
- ・月2回、口腔状態の観察で、虫歯の発見や、口内炎の発見、看護と情報を共有し早めに歯科受診が出来るようになった。
- ・仕上げ磨きの回数を増やすことで出血など口腔内でのトラブルも減少している。
- ・今後も食事や睡眠時間、口腔ケアに注意し、毎日の生活が精神的、肉体的に安定した状態で規則正しい生活で過ごして頂けるように努めたい。
- ・花粉症等のアレルギーがある方がおられるため布団は天日干しではなく布団乾燥機を使用し布団乾燥を行った。

3 処遇改善

- ①目的：日課の見直しを随時行い、利用者の皆さんが過ごしやすいようにする。
 - ・個別の取り組み等、日課の中に取り込みスムーズに実施できるようにする。
 - ・日誌、チェック表などの改変を行い、確実な支援を実施できるようにする。
- ②内容：施設内メールでの意見収集、意見交換、提案を随時行った。
 - ・随時、日課の見直し変更を行い実施していった。
 - ・記録を円滑に行えるよう、記録用紙の見直しを随時行い更新した。
- ③まとめ：意見収集と提案により、活動報告会の内容をより楽しめる物に改善できた。口腔ケアなどの取り組みについて、個々の利用者に合わせて対応を提案できた。より充実した生活を送って頂く為に情報収集や意見交換を行い、積極的な提案が必要だと感じた。
 - ・日誌やチェック表の様式変更を行い記録、情報の共有がしやすくなった。

4 午後日課

- ①目的：規則正しい生活をする事によって、生活のリズムを身に付ける。
 - ・健康的で潤いのある生活が送られるようにする。
 - ・スポーツや畑作りを取り入れ、精神的なストレスを緩和し心の健康を図る。
- ②内容：運動
 - ・マシン
 - ・創造活動
 - ・プール外出
- ③まとめ：午後の活動について、主に園内の遊歩道や学園周りのウォーキングを行った。球技大会が近い時は、出場する種目であるフライングディスクやゲート通しの練習を行った。
 - ・マシン運動は、希望者のみの個人参加型で行った。数名の利用者の方のみが使用していた。静かな場所で行える事も必要だが、もっと楽しんでできるような雰囲気作りも必要だと感じた。
 - ・創造活動は季節の行事に合わせた塗り絵や絵画、木工細工、行事の飾り作成などを行った。また、昨年利用者の方が作詞、作曲した曲を録音してCDを作成した。
 - ・プール外出はグループを5班に分け、4～5人の利用者と2名の職員で5月から11月までの週1回、布野健康福祉センターのプールに出掛けた。利用者には良い気分転換となる外出となったようだった。

- ・野菜の収穫期には臨機応変に午後からも野菜クラブの活動を行った。
- ・しいたけの収穫、乾燥までの流れを作り、数名の利用者に関わってもらった。

5 クラブ活動（午前）

①目的：活動を通して日課に添った安定した生活の提供と楽しみや、やりがいを感じて頂く。

②内容

・クリーンクラブ：5名

衣類たたみ、タオルたたみ、食堂前廊下掃除、脱衣室の床拭き、生活棟の床拭きと窓ふき
軍手洗い、軍手干し、軍手を束ねる、洗濯室の掃除、乾燥機の掃除

・リサイクルクラブ：9名

缶リサイクル：空き缶の収集、分別、缶潰し、売却、薪作り、ウッドチップ作成

紙リサイクル：新聞と広告の分別、段ボールの整理、売却

大田金属への売却回数と金額…アルミと紙の合計 19回 67,940円

・木工クラブ：5名

木工磨き、及び木材を使ったプランター作り、時計作り、学園ウッドフェンスの設置

・野菜クラブ：4名

種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜き、溝掃除、倒木の整理、面積の広い畑の区分け

③まとめ：職員を各クラブ専属で配置を行った。各所属1名ずつの職員配置となっていたが、しっかりと分担して作業を行うことができた。また、作業量によっては活動グループを合同で行ったりと、臨機応変な対応で作業効率を上げる事も出来た。

木工クラブでは、新たな取り組みとして、木材を使った作業を行い、バーナーで木を焼き、磨く作業用法を実施した。利用者の適性などを生かして、磨く、運ぶ、設置や組み立てる等の作業を分担して行った。しいたけの収穫から乾燥までの一連の作業工程が定着してきたので、継続して行っていきたい。

リサイクルクラブでは新たにウッドチップ作りや薪作りも行った。FOXで販売も行い、地域の方からも好評を頂いた。今後も継続して取り組み、地域交流の一つとしても意欲的に実施していきたい。

④課題：雨天時や午後活動の充実

6 行事

1) グループ行事

①目標：季節の良い時期は出来るだけ外出し、天候不順、感染症などの流行る時期は学園内で行いメリハリのある生活を送る。

- ・季節に合う行事を行う。

②内容

月	日	行事名	場所
4	5	花見会	尾関山、布野道の駅
5	2	在園者バスハイク	尾道千光寺公園
5	12	バスドライブ	三次運動公園
6	5	バスドライブ	道の駅高野
7	7	バスドライブ	道の駅北の関宿

8	5	夏祭り	学園多目的棟
8	14	在園者バスハイク	三和保健センター
9	11	バスドライブ	風土記の丘
10	1	はなまるレク	学園プレイルーム
11	3	藤兼祭り	藤兼神社及び藤兼地区
11	6	バスドライブ	吉田郡山公園
12	4	忘年会	学園プレイルーム
1	13	新年会	学園プレイルーム
2	9	レクレーション	学園プレイルーム
3	5	お楽しみ会	学園プレイルーム

③まとめ

- ・四季を感じていただける行事を行う事ができたと思う。
- ・外泊期間中は、在園者の方にも楽しみを提供出来たと思う。

2) 外出（お楽しみ外出／日帰り旅行）

①目的

- ・お楽しみ外出：嗜好の合う2名以下で参加し行動することで安定した生活に繋げる。
- ・日帰り旅行：社会性を身につける

②内容

（日帰り旅行）

実施日	参加人数	場所
4月26日	2名	イオンモール広島府中
5月18日	3名	キララ多伎
6月8日	2名	松江市
7月24日	3名	ゆめタウン蔵王
8月17日	2名	ゆめタウン黒瀬
9月1日	2名	島根宍道湖
10月5日	2名	広島市安佐北区
11月16日	2名	フジグラン東広島
3月14日	2名	安佐北区可部

（お楽しみ外出）

実施日	参加人数	場所
4月20日	2名	ゆめタウン吉田
5月11日	2名	サングリーン、トレッタ
6月1日	2名	ユニクロ、マクドナルド
7月11日	2名	ゆめタウン吉田
8月8日	2名	奥出雲おろちループ
9月5日	2名	サングリーン、サーティワンアイス

10月16日	2名	フタバ図書、マクドナルド、ユーホー
11月14日	2名	フタバ、ゲオ、マクドナルド
3月27日	2名	サングリーン

③まとめ

- ・出来るだけ利用者の意見を尊重し発語の不十分な方々には個人に合う場所の設定に努めた。
- ・連休期間中も外出があったが、特に問題なく、外出出来ていた。
冬期や感染症流行時期は外に出る機会が無く、近場で気分転換が出来る所があれば良いと思った。

4) はなまるレクリエーション

平成29年10月1日（日） 利用者24名 19家族25名参加

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：ともえ学園・センタープレイルーム

③内容

午前中はうどん作りを行い、午後はフォトフレーム製作を行った

④経過・課題

準備不足で満足のいく内容では無かったが、ご家族からの感想は概ね良かった。
職員間の役割分担や情報共有が出来ていなかった。

7 グループ会議

①目的：利用者の生活向上と充実したサービスの提供を目指し、環境・個別処遇・各活動について課題を提起検討する。

- ・ケースカンファレンスを行い、支援についての意識統一と利用者に対する理解を深める。
- ・各部署との意見交換、情報交換、協議。

②内容

- 4月 虐待防止について、クラブ活動、日課について、ケースカンファレンス、その他
- 5月 虐待防止について、ケース記録について、ケースカンファレンス、その他
- 6月 虐待防止について、人権について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他
- 7月 虐待防止について、クラブ活動、日課について、ケースカンファレンス、その他
- 8月 虐待防止について、人権について、ケースカンファレンス、その他
- 9月 虐待防止について、レクについて、クラブ活動について、ケースカンファレンス
- 10月 与薬について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、レクについて
- 11月 クラブ活動について、感染症予防について、ケースカンファレンス
- 12月 虐待防止について、酸素吸入について、ケースカンファレンス、その他
- 1月 虐待防止について、サービス向上について、ケースカンファレンス、その他
- 2月 虐待防止について、クラブ活動について、ケースカンファレンス、その他
- 3月 来年度について、事故報告等について、ケースカンファレンス、その他

③経過・課題

- ・虐待防止についてニュース等で取り上げられる事があり、議題に挙げられる事が多かった。
- ・会議への参加者全員が発言できるよう進行を心掛けたが、誰もが意見を出せるまでには至らなかった。
- ・積極的に会議に参加出来るような雰囲気作りなど、進行役としてのスキルアップを図る必要が有

る。

8 まとめ

- ・今年度は2名の職員の異動があり、また2月で退職される職員もいたが、利用者への影響もさほどなく、穏やかに過ごせている日が多かった。
- ・午前のクラブ活動は4つの所属グループの中で活動してもらった。新しい活動内容なども多く慣れない作業をしてもらう日もあったが、利用者の能力や可能性を見いだすこともできたので成果はあったと感じる。
- ・午後の活動においては、ウォーキング等の運動を取り入れることが多かったが、体力作りとまではいかず今後の課題となる。
- ・年度後半にインフルエンザが流行ったが、手洗い、うがい、マスクの着用など予防策を講じた効果もあり、グループ内での流行は最低限に抑えられたように思う。

(塚本博志、山地恵子、渡邊 武、魚見敏満、竹間和輝、中岡健太郎、菅原献司、今田弘之、佐々木優希、掛川陽介、瀬戸 彩)

5 医療

1 バイタルサイン・健康状態の観察について

- ・感染症流行時期は、1日2回全利用者の体温測定と健康状態の観察を行い、症状の早期発見、重症化の予防に努めた。
罹患者に対しては、バイタルサイン、健康状態の観察をより注意深く行った。
- ・感染症流行時期以外も必要に応じて、バイタルサイン、健康状態の観察を行った。
- ・高血圧治療中の利用者は、症状や経過にあわせ定期的に血圧測定を実施、血圧変動の把握と医師への報告、指示変更に対応した。
- ・水中毒、悪性症候群に対する早期対応のため、リスクの高い利用者のバイタルサイン、体重変動の観察を行った。
- ・脂質異常症、肝機能障害、腎機能障害、糖尿病、貧血に対して症状の観察を行い、異常が認められた時は、医師へ相談、早期対応を行った。

2 受診判断と受診・治療・処置の実施について

- ・突然の怪我や病気については、経過観察、医師へ報告、緊急受診等、最善の対応を速やかに判断し、必要な調整と対応を行った。
- ・定期受診（内科、精神科、整形外科、歯科、眼科、耳鼻科、皮膚科）に関しては、症状と状態に合わせて、定期的な受診引率と受診調整を行った。
- ・学園内で行う処置がある場合は、医師の指示があるものは医師の指示どおり実施し安全、清潔に努めて処置を行った。

3 与薬管理・医薬品管理・医療機器管理について

- ・各利用者に処方されている薬の薬事情報は常に最新化し、内服薬の把握に努めた。
- ・内服薬のセット時には常に最新化した薬事情報を元に作業を行い、誤薬予防、配薬予防に努めた。
- ・薬の取り扱い時は常に看護師二人でダブルチェックを行い、徹底した与薬、医薬品管理を行った。
- ・個包の錠剤については一昨年から使用している分包機を活用、可能な薬を一包化することで、業務

の効率化と個包の紛失予防を図った。

- ・調剤薬局でも一包化可能な薬については、引き続き一包化を依頼した。
- ・定期的に医務室内の医薬品、医療機器の管理、点検を行い、必要時や緊急時にスムーズに使用出来るよう努めた。

4 フットケア・スキンケア

- ・入浴後は全員に保湿ローションや保湿クリームを塗布し、症状や季節に応じたスキンケアを行った。
- ・特に皮膚の状態が悪い利用者については、食後や寝る前にも症状に応じて個別にスキンケアを追加して症状の改善を図った。
- ・確実にスキンケアが実施出来るよう、各グループ毎に必要な物品の準備・補充を行いスキンケアに必要な物品の管理を行った。
- ・うおのめのある利用者については、皮膚科医指示のもとスピール膏処置を実施し継続的にケアを行った。
- ・症状が強い場合は早めに皮膚科受診を行い、適切な薬の処方を受けた。

5 口腔の健康、口腔ケア・歯科受診について

- ・毎週火曜日に3～4名ずつ子鹿医療療育センター歯科受診を行った。
- ・生活支援員による毎食後の歯磨き支援（全面支援・部分支援・声掛け等）と、各利用者、毎月2回ずつ口腔ケアチェックシートに沿った口腔チェックを行った。
- ・口腔内の異常が発見された場合は、その都度歯科へ連絡し、相談や受診の調整を行った。

6 難病対策

- ・定期受診、内服管理、体調管理に努め、症状の出現や変化に注意した。

7 肝疾患対策

- ・新規入所者に対しては、B型肝炎抗体検査の実施、HBs抗体（－）に対して、ご家族への説明と同意の確認、B型肝炎予防ワクチン接種を医師へ依頼し実施した。
- ・B型肝炎予防ワクチン接種（3回）実施後、抗体検査を実施し免疫獲得を確認した。
- ・定期健康診断の採血結果を経て医師の指示のもと、管理栄養士と連携、17名の利用者へ肝臓病食の提供を行った。

8 がん対策

- ・定期受診、内服管理、体調管理に努め、症状の出現や変化に注意した。

9 感染症予防について

- ・標準予防策の徹底を行った。
- ・平成30年2月21日、利用者を初発とし、インフルエンザB型が流行したが、罹患者の隔離、活動の縮小、治療薬（タミフル）の投与等を行い、3月12日に終息した。
- ・インフルエンザ発生時には保健所への報告義務に従い、速やかに保健所への報告を行った。
- ・インフルエンザ発生時には保健所の指示に従い、定期的に感染者数や症状等の報告を行い、また感染拡大防止に向けて、感染予防策の徹底を図った。
- ・感染症流行時期は、検温時間や回数を変更し、異常の早期発見と症状に対する早期対応を行った。
- ・感染症流行時期は、面会、外出、外泊時には感染症予防への各対策を行い、またご家族へも感染症予防へ対しての説明と協力をお願いした。
- ・感染症流行時期にかかわらず、年間を通して発熱や嘔吐等の症状に対しては、症状に応じた罹患者の隔離、簡易検査の実施、医師への相談、受診を行った。

- ・広島県感染症、疾病管理センター（ひろしまCDC）から発令される情報を日々確認し、職員への情報提供や業務内容の変更、その他必要な予防策や指示を行った。
- 10 自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、行動障害、強度行動障害の治療と看護について
- ・症状が不安定な利用者については関係職員で早めに対応を検討し、また医師へ相談し、変薬や増薬が行われた。
 - ・精神科定期受診中の利用者については、精神科担当医へ定期的に症状を報告し、変薬や増薬が行われ、症状の強い場合は臨時受診を行い対応した。
 - ・入院治療が必要と判断された場合は、入院調整や退院調整を行った。
 - ・変薬などの治療方針の変更時には、その都度ご家族へ報告を行った。
 - ・問題行動に対しては、関係部署へ情報共有し、常に支援方法や環境設定などについて話し合い対策を行った。
 - ・突発的な怪我やてんかん発作時の症状に対して、必要な処置や病院受診を行った。
 - ・てんかん発作の有無、程度、回数を観察し、医師への報告、変薬等の指示に対応しその後の様子を注意深く観察した。
 - ・薬物血中濃度採血対象者34名に対し、半年に1回ずつ定期採血を実施し、医師へ検査結果の報告を行い、再検査や変薬等の指示に対応した。
 - ・常に利用者の様子に変化がないか、些細な変化も注意深く観察し、利用者の異常の早期発見に努めた。
- 11 定期健康診断、生活習慣病予防健診、健康増進、介護予防の実施
- ・利用者70名に対して、定期健康診断を行った。
 - ・女性利用者4名に対して、婦人科健診を行った。
 - ・利用者定期健康診断は医師の指示のもと、採血、心電図、胸部レントゲン、歯科健診、便潜血、便微生物検査、検尿、BMI、身長・体重測定を行った。
 - ・定期健康診断で異常の指摘があった利用者は、医師の指示のもと再検査や病院受診を行い、また医師や管理栄養士と連携し、療養食（脂質異常症食、肝臓病食等）の提供と健康の維持、管理に努めた。
 - ・生活習慣病予防健診結果を産業医へ報告し、産業医の指示を各職員へ通知した。
 - ・労働安全衛生法に基づく、職員健康診断（雇入時、34歳以下健診、深夜業務従事者健診）の準備、実施、産業医への結果報告を行い、職員の健康増進への働きかけを行った。
 - ・全職員へ対して、アルコール使用障害同定テスト、ニコチン依存度チェック（FTND法）を実施した。
- 12 感染防止、医療安全、医薬品、医療機器管理等ガイドラインの作成と実施、評価
- ・新たなガイドラインの作成はなかったが、感染防止策や医薬品の取り扱いについては、状況に応じて必要な場合は見直しや検討を行い、関係部署へ周知し対応した。

（櫻井永子、島原由美）

6 栄養食生活

栄養食生活

1 はじめに

利用者に安全な食事を提供するように衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、また家庭的な雰囲気が出せるように多彩な強化磁器食器を使用し、個々に応じた細やかな配慮のある食事作りに努めた。また彩りや盛り付け等にも配慮して提供した。

2 栄養量

生活活動強度は「やや低い」を用い、常食の目標量と実質摂取量は次の表のとおりであった。

	目標量	実質摂取量
エネルギー (kcal)	2,350	2,383
たんぱく質 (g)	76.0	80.1
脂質 (g)	56.9	64.6
カルシウム (mg)	600	631
鉄 (mg)	7.5	10.9
ビタミンA (IU)	2,500	2,686
ビタミンB1 (mg)	1.11	3.46
ビタミンB2 (mg)	1.23	1.30
ビタミンC (mg)	100	144

3 栄養ケアマネジメントの実施

障害があっても利用者が自立して快適な日常生活を営み、尊厳ある自己実現をめざすためには利用者一人ひとりの栄養健康状態の維持や食生活の質の向上を図ることが不可欠であることから、個別の栄養健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを利用者全員を継続実施し、アセスメント、栄養ケア計画書の作成、実行、3か月毎の再スクリーニング、モニタリングを行い、栄養健康状態の維持や食生活の質の向上に努めた。

4 療養食

糖尿病食・肝臓病食・胃潰瘍食・脂質異常症食・痛風食・腎臓病食を利用者の病状に応じて提供した。貧血食については、血液検査結果、今年度は良好であり、提供しなかった。

5 食事形態

常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者に応じて提供した。

6 真空調理 凍結含浸調理

真空調理：真空調理で汁物の具、煮物等を作成し、少量の調味料で調理、少数の職員でも複雑なメニューを提供できた。

凍結含浸調理：肉や野菜を柔らかくする酵素を使い、見た目は常食と同じ形態でも中まで柔らかく、咀嚼が少なくても食べていただけるように提供した。

7 誕生日お祝い

利用者誕生日には、お祝いとしてコーヒーゼリー、豆乳プリン、豆乳コーヒープリン、マンゴープリン等デザートを作成し提供した。

8 間食

間食は、全グループ統一して午後に提供した。

月1回月末には、手作り間食を提供した。

4月：「いちごババロア」 5月：「豆腐レアチーズケーキ」 6月：「サイダー割梅酒ゼリー」 7月：

「ビールゼリー」 8月：「ずんだ芋もち」 9月：「南瓜ケーキ」 10月：「スイートポテト」 11月：「大学芋」 12月：「ぜんざい」 1月：「パンプディング」 2月：「煮りんご入り米粉カップケーキ」 3月：「コーヒープリン」

9 正月料理

元旦昼食に雑煮、お節料理を提供した。

7 事務

1 目標

- ①事務の正確かつ迅速な処理を行い、学園内外の連絡調整を緊密にし円滑化する。
- ②外来者に対して常に明るく笑顔で接し、適切且つ迅速な対応に心がける。
- ③電話対応では明確な対応に心がけ、速やかにかつ丁寧に対処する。
- ④必要な情報の共有と公開を積極的に行い、円滑な事業の推進に寄与する。
- ⑤OA機器の活用を推進し、業務省力化を図る。

2 内容

①事務

・支援費の請求、窓口での受付、入退所手続き、療育手帳・保険証・重度障害者医療受給者証・自立支援医療受給者証の管理、各種印刷物の作成、行政機関との連絡調整、その他

②庶務

・文書收受・発送、福利厚生、パソコン・プリンター・コードレスホンの管理、その他

③経理

・財務会計処理、利用料等の請求、親の会会計、親睦会の会計、物品購入、職員給与計算、調査統計、出張命令稟議書の作成、その他

3 まとめ

上記の業務については社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を基本として日々行った。これからも原理原則を基本に、利用者、利用者家族、職員に信頼され、厳正でかつ平等に日々遅滞なく確実に遂行していきたい。

(高田孝康・清政圭子)

8 防災管理

1 目的

- ・災害発生時は、速やかで適切な対応となるよう危機管理体制を充実させる。
- ・消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を積む。
- ・緊急時への対応能力向上を図る。

2 新任職員対象の防災研修会の実施

1) 研修内容

①利用者不明時の対応

日勤帯、夜勤帯の連絡方法など・施設箇所の確認・危険物の取り扱いと理念
日常的な利用者の所在確認と注意事項

②消防関係：「防災マニュアル」を資料として基礎知識を習得

消防設備及び施設設備を実地見学

③AED、人工呼吸器、吸引掃除機の設置場所、操作説明

3 緊急時の対応

「吸引掃除機」を食堂の手洗いの下に、いつでも使用出来る状態で保管、点検を随時実施。

「人工呼吸器ユニット118番」と「AED」は職員室と医務室に各1台ずつそれぞれ常置。

4 毎月消防訓練実施

①夜間想定総合訓練 5月・6月・7月・8月・9月・10月・11月・12月・2月・3月

②昼間の総合訓練 4月・1月

※毎月消防訓練実施結果記録票を作成し保管した。

年2回、8月と2月に消防署へ消防訓練実施計画報告書を提出した。

8月は消防署より4名の方に立ち会いいただいた。

5 新任・異動職員防災研修：8月1名、12月1名

6 消火器使用訓練：新任職員2名と未経験職員1名対象

実施日：10月3日（火）2名 10月9日（月）1名

7 消防設備定期点検：9月・3月 火災報知器と自動通報装置を連動：3月業者に委託し実施

8 消防署立入検査：5月9日（火）3名来園 … 指摘事項なし

（宮崎静美）

9 安全運転管理

1 目標

- ・交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する。
- ・車輛の点検、整備を実施し車輛の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意する。

2 内容

- ・トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加
- ・安全運転管理者講習会への参加
- ・安全運転啓発の図書、幟を掲示
- ・車両貼り付け用マグネットシートの作成
- ・各季の交通安全運動の周知
- ・車輛の点検、整備を業者に依頼

3 まとめ

- ・トライザセーフティinひろしまへ参加した10チーム中8チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。全チームの目標達成は今年度も出来なかった。トライザセーフティへの意識付けをしっかりと行うと共に安全運転の徹底を図り、全チーム目標達成が出来る様にしたい。
- ・定期的な車両点検は元より、日々の確認を確実に行うことで、いつでも安全に車輛を使用出来る状態にしておく。

（塚本博志）

10 危険物取扱者

1 概要

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行っている。

2 内容

毎月、掲示板、漏油検知管、通気管、消火器の有無等の点検を行った。

1月30日危険物取扱者保安講習を受講した。

(後田喜代子)

1 1 運営会議

実施概要

- ・園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催し協議した。
- ・会議では、利用者主体の指針を見失わないように、問題提起、課題検討、日程調整等を行い、施設のより円滑な運営と利用者サービスの向上を目指した。
- ・資料など、紙は一切使用せず、プロジェクターを利用して、随時必要な情報はインターネットからも収集し会議を進めた。
- ・会議後は速やかに会議録をまとめ、即日、全員に周知した。

(高田孝康)

1 2 支援部課長会議

実施概要

- ・支援部長と支援課長の4名で構成し、毎月、月末に翌月の運営会議開催日までに会議日を設け、予定調整や利用者支援について意見交換、情報を共有し利用者サービスの向上を目指した。
- ・他部署との連絡事項、取り組みの見直しや検証、マニュアルの更新等について協議した。
- ・会議の経過及び結果は会議録を作成し、業務の統一を図るため全員に周知した。

(久保宏子、藤田由香里、塚本博志、宮崎静美)

1 3 サービス担当者会議

実施概要

- ・ケース担当者、グループ課長、看護課長、栄養課長、サービス管理責任者、子鹿障害児等相談支援事業所相談支援担当者の6名で構成、毎月中旬以降12名前後の方を対象に実施。
- ・半年毎に各利用者さんの会議を設け、モニタリングとサービス内容について協議した。急遽変更等あった場合は必要に応じ会議を追加した。
- ・対象となる利用者さんのご家族へは事前に案内し、参加の有無・ご意見・要望等を聞いていった。
- ・会議日の調整、ご家族の参加があるときには時間延長が可能となるように配慮した。
- ・施設障害福祉サービス計画書作成後には、各ご家族に送付し計画書の承諾を得た。

4月～12名対象：ご家族参加1件 5月～12名対象：ご家族参加5件

6月～10名対象：ご家族参加4件 7月～12名対象：ご家族参加5件

8月～14名対象：ご家族参加4件 9月～13名対象：ご家族参加5件

10月～11名対象：ご家族参加1件 11月～12名対象：ご家族参加4件

12月～11名対象：ご家族参加0件 1月～12名対象：ご家族参加3件

2月～12名対象：ご家族参加5件 3月～12名対象：ご家族参加3件

- ・今後もご家族と連携を取りながら利用者さんの想いに寄り添ったサービス支援に努めていきたい。

1 4 朝礼

実施概要

- ・参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。
- ・開会挨拶、服装と身嗜みのチェックから始まり、各グループ、全体係、その他からの報告、予定などの報告、出勤職員の体調状況の報告、笑顔の練習、最後に閉会挨拶で終了する。
- ・毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った。
- ・発表者の声の大きさやマイクの位置などを再確認し、さらに聞き取りやすい環境を整えていく。

(高田孝康)

1 5 園内行事

- ・一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として学園内で計画実施した。

1 ワックス掛け

日時 平成29年5月2日 火曜日

医務室→レインボー→はなまるの順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインする事やワックスの乾きが良かった等で効率良く出来た。

利用者さんの動き～ はなまる：バスドライブ レインボー：センターでレクリエーション

2 活動披露会

日時 平成29年5月9日 火曜日 10時00分～11時15分 場所 多目的棟

各グループ活動の報告後、グループ順に「椎茸の植菌」「薪割り」「木製プランター、プランター台づくり」の体験。終了後には集合しジュースで乾杯した。雨天のため、サツマイモの苗植えは行えなかった。

3 ミニレク祭

日時 平成29年6月16日 金曜日 9時50分～11時20分 場所 療育センター・プレイルーム

みんなで紙相撲を行い、楽しんでもらった。紙相撲をする会場として土俵や大相撲を模した釣り天井に、土俵入りの音楽もあり雰囲気良く出ていた。利用者さんは順に事前に作成の手作り力士を選び紙相撲に取り組みされた。終了後には参加賞、入賞などの景品の授与があった。

4 ワックス掛け

日時 平成29年7月28日 金曜日

職員室→食堂→トライアングル→管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。

利用者さんの動き～ トライアングル：一日外出 レインボー、はなまる：通常日課

5 物故者追悼式

日時 平成29年8月4日 金曜日 10時15分～11時00分 場所 療育センター・プレイルーム

物故者紹介、黙祷、追悼の言葉、献花、献歌、閉会。物故者の紹介では、参加者全員、最後まで、亡くなった方を偲び追悼する事ができた。献花した花は追悼式後、ともえ会のお墓にお供えた。

6 ワックス掛け

日時 平成29年8月14日 月曜日

レインボー → はなまるの順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。施工範囲が少なく、作業は14時頃には終了できた。利用者さんの動き～ トライアングル：通常日課、レインボー：センターでレクリエーション、はなまる：一日外出

7 収穫祭

日時 平成29年10月19日 木曜日 10時00分～15時00分 場所 畑、センター多目的棟

午前、小雨が降り希望者を中心に芋掘りを行った。午後からは、実りの秋と収穫に感謝し榊奉納が行われた。利用者さんによる御神輿も披露された。御神酒としてハーブティーを参加者で頂いた。

8 文化祭

日時 平成29年11月9日 木曜日 10時15分～15時00分 場所 療育センター

午前は、布野町まちづくり連合会より2組4名の方に来園いただき、パフォーマンスとボーカル・ギターアンサンブルがあった。終了後には花束と、ともえ学園で収穫した野菜が利用者代表により手渡され、お礼の言葉も伝えられた。午後は、映写会と同時に移動販売利用の体験があり、利用者さんは順に、事前に希望のあったクレープとホットコーヒーを受け取り、2つの会場に設定された喫茶コーナーで楽しまれた。

9 ワックス掛け

日時 平成29年11月22日 水曜日

食堂 → トライアングル → 管理棟廊下の順に掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。

各居室はワックス掛け前日までに掃除を行い、当日は、作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインをして行った。居室等の移動物品が少なかったので早くすすめる事ができた。

利用者さんの動き～ トライアングル：一日外出 レインボー、はなまる：通常日課

10 餅つき

日時 平成29年12月28日 木曜日 10時00分～14時40分 場所 療育センター・プレイルーム

グループ別に餅つきを実施。午前は、はなまるグループとレインボーグループ、午後はトライアングルグループの順だった。沢山の利用者が餅つきや餅もみの体験をされた。出来上がったお餅は、午後の間食でぜんざいとして提供された。後日、元旦のお雑煮用と、とんどでも提供された。

11 職員年賀式

日時 平成30年1月6日 土曜日 9時～9時5分 場所 ともえ学園 職員室

新年を祝い、一年の健康と多幸を祈念した。朝礼の要領で整列し朝礼前に次長の進行により開会。一同礼の後、園長の年頭の挨拶、年男、年女の2名の職員による今年の抱負。最後に新年を祝い、ぶどうジュースで乾杯した。後日、年賀の記念品として、甘酒とカップおしるこが全員に配布された。

12 利用者年賀式

日時 平成30年1月6日 土曜日 10時30分～11時20分 場所 療育センター・プレイルーム

年男5名の利用者さんは正装され前席に着席、園長より年頭の挨拶、年男の方紹介、年男代表者

挨拶、鏡開き、缶コーヒーで乾杯、獅子舞披露があり、新たな一年のスタートとなった。

13 とんど

日時 平成30年1月15日 月曜日 10時30分～11時30分 14時10分～15時00分 場所 駐車場裏
係長の挨拶により開始、年男年女の利用者、職員にトーチを持って頂きとんどに点火。利用者はしばらくとんどの火を見学。午後より食堂で、とんどの熾火でお餅を焼き竹に御神酒を入れて温め提供した。

14 活動報告会

各グループ別に行事は執り行われた。活動係により活動報告や年間の売上他をスライドにて上映し、一年間の労をねぎらった。間食には缶飲料と、詰め合わせたお菓子が利用者の皆さんに配られた。
(宮崎静美)

16 対外行事

他施設や地域の方々との交流や親睦を図りながら、地域社会の理解を深める事を目的に実施。

1 広島県西部地区知的障害関係施設親善球技大会

日時 平成29年5月21日 日曜日 10時00分～15時30分

場所 広島修道大学 グラウンド、体育館 参加者 利用者11名 職員7名

参加競技は、ゲート通し 団体3名1組(3名)、フライングディスクアキュラシー(8名)

結果:「フライングディスク」4位入賞(1名)

2 ひろしま障害者フライングディスク競技大会inみよし

日時 平成29年8月20日 日曜日 9時20分～15時30分 場所 みよし運動公園テニスドーム

参加者 利用者6名 支援職員4名

アキュラシー7m(一定の距離に置いた輪に10投し通過した枚数を競う)に参加。

結果は、50代未満の部-1位(1名) 3位(1名) 50代の部-2位(1名)

競技後、ビンゴ大会があり参加された。

(宮崎静美)

17 外泊

ご家族からの連絡で、希望日を受け付けて外泊を実施した。

外泊については全体へ周知後、外泊経過票・葉袋・外泊時のご家庭用連絡用紙・外泊時特記連絡事項票を作成、事務室掲示板に外泊期間記入、随時外泊一覧表記入、PCスケジュール記入を随時行った。変更があった場合は、全体周知及び各用紙記入変更、一覧表やスケジュールを変更した。

外泊件数(月を挟んでの外泊は、各月件数に含む)

- ・4月19件、5月29件、6月13件、7月13件、8月28件、9月12件、10月14件 11月17件、12月27件
1月27件、2月11件、3月14件
- ・療育センター宿泊利用件数
4月1件、6月1件、7月1件、9月2件、10月2件、11月1件

(宮崎静美)

18 虐待防止委員会

内容

- 1 「虐待防止のための計画づくり」…虐待防止の研修や、マニュアルやチェックリストの作成と実施、掲示物等ツールの作成と掲示等の実施計画づくり。
- 2 「虐待防止のチェックとモニタリング」…虐待防止の取り組みの実施プロセス
虐待防止チェックリスト、個々の支援体制の状況（課題）、発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況等の現況を踏まえて、どのような対策を講じる必要があるか具体的に検討し、職員への研修計画や各部署の職員が取り組む改善計画に反映させ、虐待防止マネジャー（部課長）を中心とした各部署での具体的取り組みを指示。
- 3 「虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討」…虐待や疑いが生じた場合、行政の事実確認を踏まえて施設で事案を検証の上、再発防止策を検討し、実行に移す。

まとめ

・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

・各部署での具体的な取り組み方法を策定していく。

（前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、櫻井永子、後田喜代子）

19 人権委員会

1 年間目標

- ・利用者、職員同士に於いても人権侵害、暴力、暴言は絶対に行わない。
- ・差別的な言動、体罰を用いた支援は絶対に行わない。
- ・礼節ある言葉遣いとプライバシー保護への配慮をする。
- ・専門職間の相互支援による孤立の予防（より開放的にして関わる）

2 具体的目標

5、6月 [敬語を含めた丁寧な言葉使いで支援します]

7、8月 [姓にさん付けを行う]

強化週間 7月23日（日）～7月30日（日）・8月7日（月）～8月13日（日）

※強化週間の期間は、毎日朝礼時にメンバーから発信していった。

9、10月 [身だしなみに注意する]

9月重点目標：衣類を正しく着こなす

10月重点目標：履物について、破れていないか、履き方、履く場所に注意する

11、12月 [感情的な支援を行わない]

11月重点目標：食事場面の声掛けは適切に行われているか

12月重点目標：自傷、他傷、破壊行為を行う利用者の対応が適切に行われているか

1、2月 [他の職員の支援、業務をみて自分を振り返る]

3 実施内容

・人権委員会会議を毎月1回、可能な限り日程を設定し職員室で行った。

毎月目標を挙げて振り返りを協議。具体的重点目標を挙げて人権意識を高めた。

人権に関して身近な具体的課題を出し合ったり、職員から出た意見他協議し全員へ周知した。

- ・人権相談の実施。

人権委員会メンバーが窓口になり人権相談や人権問題に取り組んだ。相談事が出た場合や問題点は随時、人権委員会で取り上げ検討や解決に向けていけるように声を掛け合った。

- ・人権擁護啓発活動の実施（職員室にポスターや標語を掲示した）

5月…（福永） 7月…（桑田） 9月…（掛川） 11月…（奥田） 1月…（宮崎）

4 まとめ・今後の課題

毎月人権に関わる目標を掲げ全体で取り組むように各部署へ発信した。翌月には人権委員会メンバーで会議を開催。各部署より振り返りの意見を出し合い協議をしていった。繰り返し目標を発信し振り返ることによって人権意識の向上へ繋がった。引き続き人権意識が高まるように働きかけていきたい。

（福永真也、桑田樹実、掛川陽介、奥田崇喜、川崎明日香、宮崎静美）

20 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。サービスの向上に繋がる取り組みなどを随時、運営会議や支援部課長会議に提案を行った。

（高田孝康、宮崎静美、後田喜代子、福永真也、荒瀬好司、渡邊 武）

21 危機管理委員会

実施概要

施設において発生又は発生することが予想される様々な事象に伴う危機に迅速且つ的確に対処するための体制を確立し、利用者及び職員の安全確保を図るとともに、施設の社会的責任を果たすための検討。

1 危機に対する対応

- ・危機の発生を想定し、発生時の対応マニュアルの策定と見直し、予防体制の構築。
- ・危機が発生した場合、利用者の安全を確保するための適正な応急措置へのマニュアル、迅速な対応と的確な対処に向けての検討と定期的な見直し。

2 危機別の計画及び対応

- ・防災計画より自然災害、天変地異・火災・感染症等・不審者、侵入者、犯罪等について話し合った。危機に対する対応について種別に確認や検討を行うとともに、防災の取り組みや備え他について議題に取り上げていった。

まとめ：5月に危機管理委員会の創設。委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議の時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。

（前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、後田喜代子）

22 衛生委員会

実施概要

- ①健康障害の防止、健康の保持増進対策の検討。
- ②労働災害の原因及び再発防止対策の検討。
- ③健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項の検討。

毎月1回、5名の委員で開催した。会議後は速やかに会議録をまとめ、全員に周知した。

(高田孝康、吉長成恭、櫻井永子、畠原由美、河合淳雄、藤井佑紀、渡邊 武、山縣圭子)

2 3 活動係

- 1 目的：活動の企画、運営を行う。
療育センター、学園周辺の清掃、環境整備を行う。
- 2 内容
 - ・学園周辺の草刈り（草刈りを行う）
 - ・FOXの修繕と管理（掃除や色塗り）
 - ・遊歩道整備と管理（安全に散歩ができるように倒木の伐採や草刈りを行う）
 - ・山の管理（下草や枝木の切り落とし）
 - ・日中活動の企画運営
- 3 まとめ
 - ・日中活動は薪作り、堆肥作り、木工作業、FOX販売を始めた。
 - ・環境整備では夏季随時草刈り等を行い生活棟内のワックス掛け等も行い環境整備に努めた。
 - ・椎茸栽培や野菜作りなども継続し行った。
 - ・FOX販売等は9月より開始し野菜や木工作品、薪等を販売した。
 - ・薪の需要があり地域住民からの一定の利用があった。

(魚見敏満、林 宏典、中野基行)

2 4 運動マシン

- 1 目的：メニューの企画とマシンの保守管理
- 2 内容
 - ・運動マシンの保守点検、トレーニングルームの環境整備。
 - ・利用者の運動の必要性に応じ、運動マシンを活用する。
- 3 課題・まとめ
 - ・各グループの係の職員の判断で行ってもらった。
 - ・夏季外気温上昇による、利用者さん移動減少の影響があった。
 - ・各グループとも日課との兼ね合いやトレーニングへの興味喚起が上手く行えず、年間を通しての活動は殆ど出来ていなかった。
 - ・運動マシンに対する職員や利用者の理解度が低く、有効利用が出来なかった。
 - ・拒否や興味が続かないなど、マシントレーニングの実施自体が難しい利用者が多く、興味を引く為の工夫、効果的に実施する為の工夫が必要だった。

(中野基行、若床まゆみ、竹間和輝)

2 5 健康体操

- 1 目的：専門の講師に身体を動かす事について教えて頂き楽しみながら健康維持につなげる体操をする。身体を動かすことの喜びにつなげる。同じ環境や雰囲気での運動の場を提供し、声掛けにより利用者の変化や好み等を観察していく。
- 2 内容

講師：河原田聡美氏

日程：毎月1回 第二土曜日の午前を基本に講師と話し合いの上、日程を決定した。

3 実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	8	13	10	8	12	9	7	25	9	20	10	10

4 課題、まとめ

- ・講師の先生がその日の利用者の様子、雰囲気等で行う内容を変え、ウォーキングやストレッチ、音楽に合わせた踊りなどを行った。参加出来る利用者も少しずつ増えてきている。
- ・課題としては、楽しく運動することで張り切りすぎや、骨折や捻挫の危険性があるので職員が危険の無い運動できる状態で支援し、参加しにくい利用者が少しでも興味のもてる内容を提供して行く。また、講師の不在の場合には、係だけで進めていくのか、ある程度講師の先生に事前に相談し、内容を一緒に考えていくのか検討が必要になってくると思う。

(竹林祐樹、藤本将太郎、菅原献司)

26 入浴

1 取り組み

- ・利用者が安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

2 内容

- ・シャンプー、ボディソープ、バスマジックリンなどの資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎月第3土曜日の午前に、各グループから一人出て浴室内外の清掃を行った。年間を通して清掃場所を決めて、実施した。
- ・入浴支援担当表を作成しスムーズな職員配置を組んだ。また、勤務変更があった場合は随時変更し病院受診などの急な職員不足にも対応できた。
- ・体調不良の個室対応の利用者がいた場合、入浴時間の変更を行い感染防止に努めた。
- ・バスタオル、洗体用タオル、職員用タオルを更新した。古いバスタオルは床拭き専用雑巾として、職員用タオルは雑巾として再利用した。
- ・掃除道具の更新を行った。

3 経過・課題

- ・足ふきマット、浴槽に敷くマットを更新した。
- ・入浴支援では、夜勤が4人体制になった事で、安定して人員確保が出来た。
- ・資材等の発注ではボディーソープ、シャンプー、洗剤等が少なくなると係で声を掛け合い不足することはなかった。
- ・備品の破損等の点検を定期的に行う必要がある。
- ・浴室内の棚が古くなっているのを、更新を行う。

(濱本 豊、堂西美保、佐々木優希)

27 洗濯

1 取り組み

- ・利用者の衣類等の洗濯をスムーズに行えるよう、洗剤等必要な物が不足しないように補充する。
- ・洗濯室を衛生的に保持する。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機等が故障しない様点検する。

2 内容

- ・洗濯洗剤、柔軟剤、ソフランシート、酸素系漂白剤、汚物洗濯機用洗剤類等の資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎週日曜日の午前は、早出職員が洗濯物畳みの後、洗濯室内の清掃を行った。
- ・雑巾の作成を行った。
- ・大型洗濯機、汚物処理洗濯機、小型洗濯機の更新を行った。

3 経過・課題課題

- ・汚物処理洗濯機が2台になったことで汚物洗濯がスムーズに行えるようになった。
- ・夜勤リーダーがシーツ類を片づけることで、シーツが溜まらなかった。
- ・洗濯室の床の掃除時間の確保と衛生的な環境作りが必要。
- ・洗濯機更新に伴い、洗剤の変更をしたがタオルや雑巾の撥水状態になり、水分を吸収しなくなった。洗剤を元に戻す。
- ・洗剤の確認が出来ておらず、在庫が無くなりそうになることがあった。
- ・ボランティアの方にも協力してもらい、タオルを再利用した雑巾を作成した。今後も継続的に実施して行きたい。

(桑田樹実、中岡健太郎、高森 強)

28 衛生

1. 目的

「菌・臭い・汚れ」を取り除き、「安心・安全・快適」な環境の維持・提供

2. 内容

- 1) エアケムの定期交換、状況に応じて追加設置
- 2) 適正な清掃物品の使用とチェック、必要に応じた交換
- 3) 衛生委員会に参加する

3. 経過

- 1) 設置可能な場所にはエアーケムを配置し、適宜交換を行った

- ① 4月20日 管理棟トイレにエアーケムホルダー設置
- ② 6月 9日 生活棟のエアーケムの交換を行った
- ③ 1月19日 生活棟・管理棟のエアーケムの交換を行った

- 2) 生活棟のモップとクロスの使用状況の確認と交換を行った

- ① 3月 1日 トライアングル モップ4枚交換
- ② 3月11日 トライアングル クロス5枚交換
レインボー モップ5枚・クロス5枚交換
はなまる モップ10枚・クロス5枚交換

- 3) 衛生委員会へ参加した

4月（渡邊・畠原）、5月（河合・畠原）、6月（山縣・畠原）、7月（藤井・河合）、8月（藤井・渡邊）、9月（藤井・河合）、10月（渡邊・畠原）、11月（渡邊・藤井）、12月（藤井・畠原）、2月（渡邊・畠原）、3月（渡邊・藤井）

4. 課題

清掃物品とエアケムは消耗品のため、定期的に交換を確実にやっていく必要がある
来年度より、あらかじめ交換時期を決めておくようにする

（畠原由美）

29 寝具

1 内容

- ・毎週火曜日までに寝具の発注用紙を記入。
- ・火曜日に寝具の搬入があり、その後リネンの係りが在庫の確認と調整をする。
- ・各グループへの在庫枚数の確認をし、リネン庫入口より左の棚に置く。
- ・在庫を確実にする為に在庫は最低限にする。リネン台帳を作りリネン室に置く。
- ・布団やシーツを汚した利用者についてはリネン台帳に名前を記入し、寝具を持ち出す。
- ・定期的にリネン庫の掃除を行う。
- ・不潔リネン室に、業者より麻袋を置いてもらい土曜日に回収してもらう。
- ・血液・便の付着した掛・敷布団・毛布は洗わずに小さく丸めて黒ナイロン袋に入れて出し、回収してもらう。便の付いた物については便が付いていることを紙に書き、業者に分かるようにナイロン袋に入れておく。
- ・感染症に関わる汚染物が付着している場合黒色ナイロン袋に入れ袋に詳細を記入する。
- ・破れた寝具を返却する際には専用用紙に記入する。
- ・7月に掛け布団から毛布に、10月に毛布から掛け布団に変更。
- ・定期的に使用している寝具を取り替える。

2 反省

- ・納入時の数量違いが数回あり、納入業者へ誤配有りと訂正を求めた。
これは事項の数量違いの一因と思われる。
- ・帳簿が未記入で在庫との食い違いが見られた。
後納入時と払出時に数量を確認するようにし、再度実数確認をする。
- ・便汚染などの汚れの布団も適切に処理し、業者へ回収してもらう事が出来た。
- ・発注伝票の記入忘れがあったが、滞り無く適切にできた。
- ・発注ミスや、業者との伝達ミスなどにより寝具が不足する事もあったが、係員が迅速に業者へ連絡することができていた。

（菅原献司、熊澤誠治、川本亜由美）

30 営繕

1 目的

- ・依頼があれば、迅速、安く、丁寧に対応する。
- ・生活しやすい環境を整え整理整頓する。

2 主な実施内容

4月

- ・旧営繕室から新営繕室へ物品移動…簡単
- ・洗面室2の長椅子修理…溶接機があったから出来た。
- ・104号室、204号室、301号室ベッド修理…簡単
- ・レインボー洗面室ドアの修理…簡単
- ・711号室壁紙補修…簡単
- ・洗濯室ドアノブ交換…簡単
- ・居室ドアノブ点検 …簡単
- ・エアコンの3か月毎の簡易定期点検…簡単
- ・306号室ポータブルトイレ修理…簡単だったが再修理が必要。

5月

- ・トライアングル、ベッド点検、修理…簡単
- ・トライアングル戸当の交換（4ヶ所）…ピンが錆びて取れなかったため隣に穴をあけた。（1カ所）
- ・洗面室1の壁修理…簡単
- ・女性棟トイレの壁修理…簡単
- ・女性棟壁修理…簡単
- ・4通りトイレ横の壁紙修理…簡単
- ・609、610、709号室の鍵点検、注油。…簡単
- ・6通り洋式トイレの壁紙補修、用具入れの扉修理。…簡単
- ・7通り洋式トイレの水漏れ修理。…少し手間取った。
- ・洗濯カゴ用キャスター作成（2個）…簡単

6月

- ・102号室カーテンフックの取付…終了
- ・204号室のベッド撤去…終了
- ・306号室、ポータブルトイレの修理…物品破損で修理が出来なかった
- ・403号室サッシ調整…終了
- ・402号室、511号室ドア修理…終了
- ・608号室の壁紙貼り及び、サッシの修理…レールのゆがみあり少々難儀
- ・6通り洗面所の、手指乾燥機の固定…終了
- ・6通り洗面所の排水管水漏れ修理…終了
- ・712号室のドア受けの金具修理…終了
- ・1～7通り奥のサッシレール掃除…終了
- ・管理棟玄関上の掃除…終了したが、一部塗装の剥がれ有り

7月

- ・レインボー全ドアヒンジ、確認、交換…終了
- ・6通りトイレドアノブの修理…終了
- ・全エアコンフィルター確認、必要に応じて交換掃除…交換は終了。掃除は半分ほど残った。
- ・管理棟西壁掃除…終了
- ・エアコン簡易点検…終了

8月

- ・408号室、711号室壁紙張り替え…完了
- ・エアコンフィルター掃除…完了
- ・居室ドアノブ注油…完了
- ・2通り壁紙張り替え…完了
- ・ムカデ用殺虫剤散布

9月

- ・105号室壁穴修繕…完了
- ・トライアングル壁修繕…完了
- ・トライアングル洗面室1の長いす足強化…完了
- ・女性棟トイレ壁修繕…完了
- ・医務室ドア修繕…修繕できる部分のみ完了
- ・6通りトイレの洗面泡沫キャップ交換…完了
- ・6通り洗面台の固定…完了
- ・6、7通りトイレの蝶番交換…完了
- ・604号室ドアノブ鍵調整…完了
- ・611号室ドアノブ交換…完了
- ・709号室鍵穴補修…完了
- ・樋点検…完了

10月

- ・エアコン点検
- ・管理棟女性トイレのドア調整
- ・浴室外の網戸の劣化・穴等のチェック（交換は11月の営繕日）
- ・4通り廊下の壁紙貼り替え
- ・4通りトイレの便座取付
- ・508号室廊下の壁紙張り替え
- ・7通りトイレの換気扇掃除
- ・はなまるコップ乾燥機台の修理
- ・6通り、7通りトイレのドア調整
- ・608号室、709号室の壁穴修理
- ・厨房シンク横のコーキング

11月

- ・全エアコンフィルタ交換、掃除
- ・103号室ドアクローザー調整
- ・512号室横の廊下の壁修繕

12月

- ・エアコンフィルタ掃除（残り）
- ・男性更衣室の壁（幅木）修繕
- ・103号室ドアクローザー調整、交換
- ・312号室壁修繕

- ・ 5通りトイレの壁修繕
- ・ 6通りトイレの蝶番交換
- ・ 男性脱衣室カビ落とし
- ・ 食堂出入り口ドアの上下の埃の掃除と開閉の調整
- ・ 食堂前廊下から管理棟廊下への出入り口ドアの開閉と確実な施錠になるよう調整
- ・ 屋上のゴミの除去
- ・ 居室のドア点検

1月

- ・ 103室ドアクローザー調整
- ・ トライアングル職員室ドアクローザー交換
- ・ レインボーリビングテレビ棚の修理・アクリル板設置
- ・ レインボーリビング横の点検口つり上げ
- ・ 404号室付近の廊下の穴埋め
- ・ 706号室の壁紙補修とプレートの取り付け
- ・ 6通り洗面室ドア調整
- ・ 管理棟職員室ドアノブ修理
- ・ 106. 108. 202. 301. 306. 309. 311. 312. 405. 504. 510. 604. 607号室ドア修理

2月

- ・ 全エアコンフィルター掃除
- ・ エアコン簡易点検
- ・ 職員室ドアノブ調整
- ・ 404号室壁紙補修
- ・ 405号室ドアノブ調整
- ・ 604号室壁穴補修
- ・ 男性更衣室ドアノブ調整
- ・ はなまるリビング壁穴、壁紙補修
- ・ 全ての居室、廊下の補修ヶ所の点検

3月

- ・ 103号室ドアクローザー調整
- ・ 511号室サムターンに変更（ドアノブの軸も交換する）
- ・ レインボー職員室ドアの蝶番調整
- ・ 多目的棟樋掃除
- ・ 学園車両駐車場掃除
- ・ 洗濯室ドアノブ点検
- ・ センター洗濯室排水口掃除
- ・ 学園車輛洗車、タイヤ交換

3 まとめ、課題

今年度から、「営繕作業計画書・方向書」を作成し、計画通りに作業を行った。エアコンフィルター掃除にほぼ一日かかるため他の作業が出来ない場合があった。エアーガンを購入したことで効率よく作業することが出来た。壁にパネルを貼ったことで壁紙補修がかなり少なくなりその分他の作業を行う

ことが出来た。ボイラー室での作業や道具の管理が今後の課題。

(藤井秀樹、見土 唯、今中竜司)

3 1 食生活

1 目的：食堂の環境整備、清掃、備品の管理をおこない、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するため企画検討実施する。

2 内容

- ・係で月に一回サイボウズを利用して会議を行い会議録を作成した。
- ・各グループで誕生者お祝いパネルを作成して、誕生日に食堂でのお祝いを行った。
- ・ゴミ箱を新しく購入した。
- ・食堂用の箸、ちりとり、激落ちくん、ガラスマジックリンを購入した。
- ・古くなった台拭きは食堂掃除用として使用した。
- ・各グループで必要に応じて利用者の席、机の変更を行った。
- ・手消毒用のジェスパを使用し食事前の消毒には気をつけた。
- ・毎週日曜日に各グループより一名ずつ集まり、食堂の汚れている箇所を清掃した。
- ・稟議書で一年間の掃除場所を固定し、年度初めに周知した。
- ・エプロンを4枚新しく更新した。
- ・食堂掃除は昼は各グループでゴミの清掃。朝、夕は夜勤リーダーが拭き掃除を行った。
- ・ボランティアで台拭きを10枚作成してもらった。

3 課題・まとめ

- ・掃除道具の補充、掃除方法の工夫。
- ・要掃除箇所の周知。
- ・食堂の環境。
- ・机の配置。

(高森 強・堂西美保・瀬戸 彩)

3 2 ともえ通信

1 概要

- ・ともえ通信の編集発行と、平成29年度の事業報告書の編集発行。
- ・ともえ通信は毎月1日に印刷。ご家族、理事、評議員に配布し、同時にホームページに掲載。
- ・職員の感想も募り次号の参考とした。

2 毎月の記事

◇5月1日発行 第349号 ①4月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動係
⑤5月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記

◇6月1日発行 第350号 ①5月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④親善球技大会
⑤6月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦新任職員の紹介 ⑧編集後記

◇7月1日発行 第351号 ①6月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ミニレク祭
⑤7月の予定 ⑥編集後記

- ◇ 8月1日発行 第352号 ①7月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④実習係り
⑤8月の予定 ⑥新しい利用者さんの紹介 ⑦ご逝去のお知らせ
⑧人事異動のお知らせ ⑨編集後記
- ◇ 9月1日発行 第353号 ①8月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④物故者追悼
式 ⑤9月の予定 ⑥編集後記
- ◇ 10月1日発行 第354号 ①9月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ボランティア係
⑤10月の予定 ⑥編集後記
- ◇ 11月1日発行 第355号 ①10月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④FOX紹介
⑤11月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇ 12月1日発行 第356号 ①11月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④文化祭
⑤親の会行事 ⑥12月の予定 ⑦人事異動のお知らせ ⑧編集後記
- ◇ 1月1日発行 第357号 ①12月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④餅つき
⑤新年の挨拶 ⑥1月の予定 ⑦人事異動のお知らせ ⑧編集後記
- ◇ 2月1日発行 第358号 ①1月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④とんど
⑤2月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇ 3月1日発行 第359号 ①2月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ゴミゼロ係
⑤3月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇ 4月1日発行 第360号 ①3月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会
⑤4月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記

(見土 唯、今田弘之、川本亜由美)

3.3 職員研修

1 職員研修会

①目的：研修の機会の提供・利用者支援技術の向上

・障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を認識するため

②内容

・ 5月27日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者13名

講師：安田女子大学教授 船津守久先生

内容：①「障害のある人との関わり」（資料とDVD）

②利用者さんへの声かけについて

（不適切と思われる声かけや対応 時におかしいと感じた事、など）

・ 6月24日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者15名

講師：安田女子大学教授 船津守久先生

内容：①関わりに関する資料と関連するDVD

②地域共生社会の実現に向けた取り組みについて

・ 8月24日（金） 18：20～19：20 センタープレイルーム 参加者16名

講師：三次消防署職員 3名

内容：「救命救急について」（心肺蘇生法の学習、ADEの使い方）

・ 9月16日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者12名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①DVDと「かかわりについて」の講義

②冰山モデルについて

・ 10月28日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者12名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①利用者さんとの関わりについての講義とDVD

②あきらめない支援

・ 12月1日（土） 18：10～19：00

講師：吉長成恭医師

職員室

参加者15名

内容：①「しあわせ度と要介護度・平均寿命との関係」

・ 2月24日（土） 18：10～20：00

職員室

参加者14名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

内容：①障害者への虐待についての講義

②「虐待防止について」…支援についてのロールプレイ

- ・ 船津先生に5回講義していただき、心理学を通して利用者への理解を深めることができた。
- ・ 参加者の増加を目指し、毎回各職員に参加を促す。人数は少ないときが多かったが、出張で研修した内容を伝えたり、行動障害の事例等を発表した。準備等不備もありみんなにわかりやすく説明し、伝える事が求められる一年だった。
- ・ 映像を多用することで、実務経験の差があっても判りやすい研修会が出来た。また、映像を見ることで意見や感想が出しやすく、最初の方に比べ沢山の意見や感想がもられた。
- ・ 研修内容をグループに分かれディスカッションをし沢山の意見がもられた事。他の職員もどのような事で支援で困っているか、聞く事も出来た。
- ・ 吉長先生にも研修をしてもらい、違った内容の研修が聞く事が出来た。

（岩戸洋三、魚見敏満、藤本将太郎）

2 新任職員研修

- ・ ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。研修資料を渡し、運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他、処遇関係、栄養課業務、看護課業務について研修を実施した。
- ・ ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続した。
- ・ 新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々様子や感想、困った事等はないか、いつでも聞ける体制を敷いた。
- ・ 実施時期 平成29年8月 対象職員：生活支援員1名 12月 対象職員：調理員1名

◇その他

新人教育チェックシートの実施。新任職員の修得してきた事の確認をするとともに、フィードバックを行い、新任職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために実施。評価は、自己評価に加えサポート職員や各部署の部課長による他者評価を取り入れた。新任職員のレベルアップに向けて行く。

（宮崎静美）

2 新任職員研修

- ・ともえ学園での業務内容について理解を求めると共に、適切な支援が出来る職員の育成を行った。研修資料を渡し、運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他、処遇関係、栄養課業務、看護課業務について研修を実施した。
- ・ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続した。
- ・新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々の様子や感想、困った事等はないか、いつでも聞ける体制を敷いた。
- ・実施時期 平成28年4月 対象職員：看護師1名 5月 対象職員：生活支援員1名
平成29年2月 対象職員：生活支援員1名・看護師1名

◇その他

新人教育チェックシートの実施。新任職員の修得してきた事の確認をするとともに、フィードバックを行い、新任職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために実施。評価は、自己評価に加えサポート職員や各部署の部課長による他者評価を取り入れた。新任職員のレベルアップに向けて行く。
(宮崎静美)

3 4 親の会

- 1 概要：ともえ学園入所者のご家族で組織されたものが「ともえ親の会」であり、事務局は親の会係として職員が担当しており、以下親の会の活動を紹介する。
- 2 事業
 - (1) 総会 平成29年4月29日(土) 46家族、57名参加 於：ともえ学園療育センター
 - (2) 懇親会 平成29年4月29日(土) 36家族、48名参加 於：三次グランドホテル
 - (3) 役員会 ◇1回目 平成29年4月29日(土) 於：ともえ学園療育センター
◇2回目 平成29年6月18日(日) 於：ともえ学園療育センター
◇3回目 平成29年11月12日(日) 於：ともえ学園療育センター
◇4回目 平成30年3月17日(土) 於：広島市心身障害者福祉センター
 - (4) 茶話会 平成29年6月18日(土) 45家族、64名参加 於：ともえ学園療育センター
 - (5) 研修会 平成29年11月12日(日) 44家族、58名参加 於：ともえ学園療育センター
 - (6) 入院互助会 入院時の付き添い料の補填なし
 - (7) 利用者私物購入経費等の立て替え
 - (8) 児童発達支援センターバンビへ開所祝い贈呈

[ともえ学園行事等への参加、協力]

- (1) 知的障害関係施設親善球技大会の見学、応援 平成29年5月21日(日)
於：広島修道大学 グラウンド
- (2) 演奏会 平成29年6月18日(日) 45家族、64名参加
- (3) グループレクリエーション
 - ◇トライアングルグループ 平成29年9月24日(日) 18家族、22名参加
 - ◇はなまるグループ 平成29年10月1日(月) 19家族、25名参加

◇レインボーグループ

平成29年10月8日（日）16家族、30名参加

(4) 映写会

平成29年11月12日（日）44家族、58名参加

3 感想・今後の課題

- ・茶話会では、利用者さんの年齢別に5グループに分かれて行ったが、ご家族からは、少人数で意見も言えたのでよかったと好評だった。
- ・グループレクリエーションは、それぞれのグループで利用者さんと一緒に楽しんでもらえる企画が考えられており、また多数、ご参加して頂けたのでよかったと思う。
- ・ご家族の方との交流を大切にし、安心してもらえるように努めたい。

(上川清美、今田弘之)

35 ボランティア

1 概要

・ボランティアグループ三次の皆様の受け入れ、送迎などを行い、衣類補修、台拭き縫い、雑巾の作成をして頂いた。

2 施設見学

- ・今年度は施設見学の希望はなかった。
- ・ボランティアに来園された方々の承諾を得て、作業風景などの写真をフェイスブックに掲載させて頂いた。

3 作業

- ・作業に不足している物があれば来園された時に聞きながら補充を行った。
- ・ミシンは作業前に確認し直ぐに作業が取り掛かれるようにした。
- ・ドアホンを使用し、不具合や困った事などは一度事務に連絡してもらい、その後に係が対応した。

4 アンケート

- ・今後の対応を向上させるためにアンケートに回答して頂いた。
- ・来園者の皆様で話し合って1枚に回答して頂いた。

5 受け入れ状況

- ・5月22日 和田地区
- ・6月26日 十日市地区
- ・9月25日 十日市地区
- ・10月23日 八次地区
- ・11月27日 神杉地区
- ・1月22日 神杉地区
- ・2月26日 河内地区
- ・3月26日 十日市地区

6 反省

- ・勤務の都合により係職員が参加出来ない事があった。
- ・送迎や準備など係で協力して行えた。
- ・女性職員がいる事で大抵のトラブルには対応出来た。

(熊澤誠治、山地恵子、藤井秀樹)

3 6 見学

1 概要：電話等での依頼により、見学日、内容等の希望を聞き、行事予定表に沿って日程調整を行った。特に、生活棟の見学については、利用者への影響や、プライバシーの保護を優先、時間帯なども配慮し実施した。

2 見学受入日

- ・ 7月10日 月曜日 2名 施設見学（施設入所を考慮して～ご家族）
- ・ 7月26日 水曜日 3名 施設見学（施設入所を考慮して～ご家族、生活支援センター安佐南）
- ・ 11月24日 金曜日 3名 入所希望（本人、ご家族）
- ・ 12月28日 木曜日 4名 施設見学（施設入所を考慮して～ご家族、瀬野川学園）
- ・ 3月6日 火曜日 3名 施設見学（施設職員）

3 見学者受け入れマニュアルに沿って実施した。要覧は毎月、月初めに更新していった。

（宮崎静美）

3 7 実習

1 目的：自閉症や知的に障害がある方たちに対して、支援方法や人権尊重をふまえた理念を実習生に伝え、福祉専門職に就くために必要な技能と知識の一端を学んでもらう。

2 受け入れ状況：

平成29年 7月 3日～7月14日（10日間）トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校 3名

平成30年 1月22日～1月31日（10日間）中国学園大学保育実習 1名

3 まとめ（共通）

- ・ 事前の施設訪問を行い、施設・利用者の特徴などを説明し施設見学を行った。
- ・ 自閉症に関して説明してあるDVDを貸し出し事前学習をしてもらい実習に入る前に理解を深めてもらった。
- ・ 実習終了後にDVDを見た感想と実習を終えての感想を提出してもらった。
- ・ 自宅から通えない学生であった為、療育センター宿泊室に宿泊してもらった。
- ・ 実習日誌については事前に配属部署の課長に設定してもらった日々の担当者により、スピーディーに書き込みができ、実習生とのやりとりもスムーズであった。
- ・ 食事を宿直室で食べてもらったのでゆっくりと食べて貰う事は出来た。昼食の休憩時間を利用者の方の食事時間とずらして食事支援を経験してもらえた。
- ・ 入浴支援も時間を作り、経験してもらった。

①トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

- ・ 2名と1名に分かれてグループ実習に入ってもらったため、少し実習内容に差が出たと思う。
- ・ 最終日に設定療育でダンス、カラオケを行い利用者の方が楽しそうに参加されていた。
- ・ 食事はアレルギーがあった様だが、厨房で配慮をしてもらった。

②中国学園大学保育実習

- ・ 最終日に設定療育で貼り絵を行い、利用者の方が実習生の声かけで参加されていた。
- ・ 実習時期に積雪があり、室内活動の実習をってもらう事が多かった。

4 今後の課題

- ・時期的に行事がなかった。行事に参加して貰う事が出来れば良かったと思う。
- ・実習生の予定について、全ての職員が把握していない状況があった。日課、予定の周知の工夫、徹底が必要だった。

(掛川陽介、堂西美保、濱本 豊)

3 8 あいさつ運動

- 1 主旨：『あいさつ』は、社会人としての基本です。気持ちの良い挨拶で一日をスタートさせ気持ちの良い挨拶で一日が終われるよう自分から積極的に挨拶をしましょう。挨拶は心と心を繋げる架け橋です。

目標：「自分から 積極的に 笑顔で気持ちの良い挨拶を」

2 実施計画

- ①利用者、職員間の挨拶を積極的に行う。

- ・あいさつレベル5の達成を目標とする。
- ・司会者に朝礼時と施設見学時にタスキと腕章を付けてもらい、「笑顔で」「元気にはっきりと」その日の出勤職員や各グループの利用者に率先して挨拶を行う。
- 準備物：タスキ、腕章（タスキの更新）

- ②職員室の掲示板に「あいさつ運動」のポスターを貼る。

- ・3ヶ月に一度、係員が交替で作成し貼り替える。(B4画用紙)
- ・自由に個性を生かし、標語や絵などのポスターを作成する。
- (5月：瀬戸、 8月：金田、 11月：荒瀬、 2月：松本)

- ③あいさつは、マナーや接遇にも関係しており、利用者や職員間の言動や態度などでこれは？と思われたことに対しては係員が各グループの課長と話し積極的に 正していけるよう声掛けや態度で示していく。

- ・3ヶ月毎各グループの方よりグループのあいさつの状況を、グループ会議で話し 合い、あいさつ係に報告をしてもらい全体に報告周知をしていく。

- ④模範的な見本となる挨拶、姿勢、態度等を具体的に明示する

- ⑤その他

- ・現場を離れるときに、行き先や、仕事内容を明確に声を出して他の職員に伝えているか(報告・連絡)の啓発を行う。
- ・利用者に対する言動や態度にも注意をする。(相手に体を向ける、あいさつの仕方、同じ高さ目線に立ち挨拶をする。声掛けの仕方など)

3 実施状況(実施内容・変更点など)

- ・3ヶ月に1度管理棟職員室に、標語や絵などのポスターを貼り出した。
- ・月に一度サイボウズ内又は口頭で会議をおこなった。
- ・施設見学の記録用紙をまとめ会議録に記録した。

2 反省

- ・施設見学の記入用紙をまとめて会議録にただ記録するだけでなく改善点がある場合「こうしましょう」等のよびかけをする感じで会議録に記録できたら良かったと思う。
- ・タスキの更新を予定していたが更新できていない。

3 9 ゴミゼロ運動

- 1 目的：施設内外を清潔に保ち職員全体で住みやすい環境を整える。
- 2 清掃活動の取り組み

- ・年間の清掃場所と係員を決め清掃活動を行った。
- ・他の係や行事などで変更しながら人数の確保が出来るときに清掃活動をした。
- ・事前に場所と内容、参加者名を周知した。

参加者（各グループから1名、事務所又は厨房・看護から1名、ゴミゼロ運動係1名の4名）

清掃箇所	4月29日	土曜日	管理棟宿直室清掃
	5月27日	土曜日	学園正面玄関清掃
	6月24日	土曜日	管理棟職員室清掃
	7月22日	土曜日	男性更衣室
	8月26日	土曜日	学園正面玄関清掃
	9月23日	土曜日	洗濯室清掃
	10月28日	土曜日	管理棟宿直室清掃
	11月25日	土曜日	療育センター玄関清掃
	12月23日	土曜日	学園正面玄関清掃
	1月27日	土曜日	管理棟職員室清掃
	2月24日	土曜日	女性更衣室清掃
	3月24日	土曜日	洗濯室清掃

3 まとめ

- ・全体清掃活動は日頃掃除が出来ていない場所などを重点的に清掃出来る良い活動だと思う。
- ・15分の限られた短い時間での清掃活動だが、参加者が協力し合って活動を行えたが、場所によっては時間が足りず時間の延長が欲しかった。
- ・稟議書では7月のみ第4水曜日に成っていたが、毎月第4土曜日に統一出来た。
- ・ゴミゼロ係のポスターは掲示しなかった。
- ・冷蔵庫の中に入っている飲料など、記名が見られるようになった。

(山地恵子、高場修治、山下英明、金田和夫)

4 0 掲示物

1 活動

- ・管理棟職員室のホワイトボードに情報誌やカタログ、広報誌やお便りを掲示し、それと併せてサイボウズに題名、発行者、種別、掲示期限を打ち込み周知した。また参考になる掲示物があればコメント入れて周知した。
- ・サイボウズ内に打ち込んだもので掲示期限を過ぎた物に関しては打ち込んだ職員が消去していきサイボウズ内の整頓にも留意した。
- ・ファイルを用意し、保管すべき掲示物をファイリングするようにした。
- ・掲示物は職員が協力して期限の過ぎた物を撤去し、職員間の連携も保てたと思う。

- ・見栄えが悪くならないようバランスを考えながら掲示した。
- ・期限の切れた書物はリサイクルへ活用することができた。

2 反省

- ・業務等で参考になる資料などは、目立つように掲示するなどの工夫があればよかったと思われる。
(藤井佑紀、岡下チエミ、佐々木優希)

4 1 エコロジー

1 理念

- ・限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める
- ・施設内で実践できるエコ活動の啓発

2 内容

- ・エコ目標を決め、係を中心に啓発する。
- ・エコに関する標語を8月と12月に掲載する。

3 反省・課題

- ・今年度は、前年度に比べると、少しは予定通りに進める事が出来たが、やはり取りかかりが遅く切羽詰まった感じになってしまった。
- ・各グループの係職員との連携がとれていたとも言えないが、意見を聞く機会は持てたので、早くから実行していけば良かったと思う。
- ・学園以外の所では、どんなエコ活動があるのか、勉強して行くことが課題かと思う。

(林 宏典、岩戸洋三)

4 2 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。
 ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。
 ネットワークカメラへのリンクは削除した。

(前岡孝司)

4 3 広島県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会

1 概要

- ・広島県知的障害者福祉協会の各施設の支援スタッフ部会員として、施設から選任され参加した。
- ・サービス提供における必要な視点、支援技術の情報交換や他施設の見学を通して話し合いながら資質の向上に努める。

2 支援スタッフ部会義

7月20日 平成29年度第1回圏域スタッフ部会議

場所：障害者支援施設いくせい

1月31日 平成29年度第2回圏域スタッフ部会議

場所：広島市皆賀園

3 内容

- ・第1回：施設見学とグループワーク、各施設の権利擁護に関する資料の紹介
- ・第2回：施設見学とグループワーク、情報交換会

4 感想

- ・施設見学をさせて頂き、活動場所や生活場所で配慮している事など学ばせてもらった。また活動内容について、色々と参考になる事があった。
- ・グループワークでは、他施設の権利擁護についての取り組みを紹介してもらい勉強になる事が多かった。事例検討もあり、自身の支援方法の振り返りもできた。（竹間和輝）

4 4 書道クラブ

- 1 目的：意識を統一して、書く楽しさを知る。
 - ・書くことにより精神の安定を図る。
 - ・作品を出展し、生活の励みとする。
 - ・書道が好きな利用者の楽しみを増やす。
 - ・展示される事でやりがいを見出す。
- 2 内容：毎月1回、第3土曜日の午後から大作業室で行った。
 - ・6月からは月毎に課題を決め実施した。
(6月…「雨」 7月…「海」 8月…「花火」 9月…「台風」 10月…「秋」
11月…「柿」 12月…「冬」 1月…「雪」 2月…「豆」 3月…「春」)
- 3 経過：講師不在のまま一年間、活動することとなった。
 - ・親の会やセンターでの行事の際には展示を行った。
 - ・毎月、出品用の作品を選び、6月分から12月分の作品の中から一人一点を1月に「ふれあい書道展」に出品した。また、それとは別に管理棟玄関にも作品の展示を行った。
- 4 課題：早急に講師を決定する。

担当職員の意向のみで参加しているが、あまりに他利用者とのスキルが違うと、十分な支援が難しく、メンバーの見直しが必要。

年度をまたぎ、継続性を持たせ、「ふれあい書道展」には7月と1月の年に2回の出品を目指す。

(高場修治、圓藤久明、佐々木優希)

4 5 フラワークラブ

- 1 目的：専門の講師にフラワーアレンジメントを習い、経験を重ね、自信に繋げていく。
 - ・花を切ったり、生けたりすることを体験することで楽しさに繋げていく。
 - ・継続することで、利用者の変化や好み等を観察していく。
- 2 内容：5月から毎月、第3火曜日の13時40分～15時30分
 - ・2から3グループに別れ行った。
 - ・生けた花は、玄関に飾り、親の会行事の時は、センターに飾り、家族の方にも持って帰ってもらった。はなまるは利用者は、自室へ飾った。
 - ・秋には山に行き、花材を見つけてアレンジメントを行った。
- 3 経過： 4月15日 テーマ：めばえ 5月16日 テーマ：感謝 6月16日 テーマ：初夏
7月18日 テーマ：太陽の花（ひまわり） 8月21日 テーマ：初秋

9月12日 テーマ：実りの秋 10月17日 テーマ：秋雨
11月7日 テーマ：時雨の秋 12月19日 テーマ：クリスマスとお正月
1月16日 テーマ：春近司（大寒） 2月20日 テーマ：春のおとずれ
3月20日 テーマ：春雨

4 感想と課題

フラワーアレンジメントも2年目になり、講師の先生とのコミュニケーションをとりながらスムーズに行うことが出来ている。係職員以外にも職員が多数参加出来る時には、個別に職員が付くことが出来た。トライアングルとレインボーについては、はさみを使用することは、難しいので、職員が支援を行った。はなまるは、怪我の無い様に気を付けながら出来るだけ自分で切って生けてもらうことが出来た。

来年度の課題としては、花を生けるだけではなく、準備から片付けまでを利用者さんとする時間がとれたらと思う。

(若床まゆみ、竹林祐樹、中岡健太郎)

4 6 施設整備

居室及び廊下窓への遮熱フィルム貼付工事（破損時の飛散防止と遮熱、断熱）

ケース記録システムの変更

自立支援費及び利用料請求システムの変更

洗濯機、乾燥機、汚物処理機更新及び増設（更新時期を迎えたため）

給湯配管漏水補修工事（床下ピット内で発生）

浄化槽修理（ろ材浮上修理）

厨房湿温蔵庫、電磁調理器、ブラストチラー更新（更新時期を迎えたため）

浴槽用薬注ポンプ更新（更新時期を迎えたため）

加湿器設置工事（生活棟廊下に設置）

自動火災通報装置の「直接通報」工事（消防法令の改正に対応）

廊下壁改修工事（痛みの激しい箇所の改修）

居室等扉交換工事（痛みの激しい箇所の交換）

(高田孝康)

平成29年度 事業報告書

平成30年6月1日発行

ともえ学園 (障害者支援施設)

〒728-0002 広島県三次市西河内町10250番地
電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934
E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp
URL <http://www.pionet.ne.jp/~tomoe/>
